

# 令和3年度事業報告

令和4年6月23日

社会福祉法人 黎明会

## 目 次

【1】法人全体の総括・法人本部総務局	1
【2】障害者支援施設 澄水園	24
【3】救護施設 黎明寮	33
【4】救護施設 あかつき	45
【5】特別養護老人ホーム やすらぎの園	51
【6】診療施設 南台病院	61
【7】指定就労継続支援 B 型事業所 のぞみ作業所	68
【8】介護老人保健施設 けやきの郷	76
【9】有料老人ホーム 熱海ゆとりあの郷	83
【10】在宅サービス総合センター	92

## 【1】法人全体の総括

### 1 法人の運営方針

黎明会は、救護施設、障害者支援施設、特別養護老人ホーム、病院、介護老人保健施設及び有料老人ホーム並びに在宅サービス、福祉開発振興援助事業及び黎明会ケアスクールという広範かつ多様な事業を実施している法人であり、令和3年度においても保健・医療・福祉の各事業間の相互連携を強化し、当法人ならではの総合的・有機的な事業展開に努めた。

黎明会の各施設はこれまでの各種防止対策によって新型コロナウイルス感染症の発生は無かったが、オミクロン株の出現による第6波の急激な感染拡大の影響により、あかつき、黎明寮、澄水園において入所者の感染者が多数発生した。この事態に対して南台病院や法人感染症防止対策委員会等との連携により、施設内フロアの一時閉鎖や導線の区別を行うなど適切な対応を行ったことで、令和4年3月末に収束した。

さらに、新型コロナワクチン第3回目の接種については、南台病院、けやきの郷が連携し施設利用者及び職員に接種を行うとともに、南台病院においては、一般市民への接種も行い、地域医療を担う病院としての役割を果たした。

法人経営においては、やすらぎの園では、入所者の医療機関への入院をする者が令和2年度に比べて令和3年度は増加したが、医療機関との積極的な情報共有と連携のもとに、空床期間の短縮によって稼働率が向上した。けやきの郷では、新型コロナウイルスの影響もあり、病院や在宅からの入所者の減少等によって在宅復帰率が低下し、基本報酬加算型から基本型へ移行して収入減となった。このため、再度加算型の取得に向けて、令和4年4月より訪問リハビリテーションを開始するなど収益向上に向けた努力を行っている。熱海ゆとりあの郷では、自然退去を含めた退去者の増により、入居率が70パーセント台前半まで減少している。このため、新規入居者確保のために、広報紙「ゆとりすと」の内容の再編集を行い、令和3年10月から東京23区及び小平市、熱海市、小田原市の日本経済新聞購読者に継続的に配布している。また、熱海ゆとりあの郷診療所は、看護師不足により入院病床を令和2年8月より休止していることから、令和3年4月より、外部の提携病院を従来の1か所から3か所とすることで、緊急の診療体制の拡充を図った。南台病院では、新型コロナウイルス感染症の影響が長引く中、入院、外来どちらの患者数も目標値には及ばなかったが1日平均診療単価はいずれも増となった。とりわけ、令和3年5月に医療療養病床を減床させる代わりに収益増が見込まれる地域包括ケア病床を増床したことによって入院の収入増の大きな要因となった。

一方、黎明会の老朽施設の修繕、改築は、まず、令和3年度末に、黎明寮の大規模修繕工事が完了した。工事着工前の検査で天井材の一部や外壁の接着剤にアスベストが含有していることが判明し追加工事となったが、地域住民へ丁寧な説明を行い、理解を得ながら工事を行った。次にあかつきの改築については、大規模開発事業における土地利用構想届出書を小平市へ提出し、条例手続きによる住民説明会を開催するなど、改築に向けた準備を進めている。

2 法人全体の人員配置  
 (1) 施設別職員配置状況

(単位：名)

職 種	配置基準 (国等)	配置基準 (加算分)	配置基準 小計(①)	基準超過分(②)	配置基準計 (定員数) (①+②) A	令和4年3月31日現在人員配置状況					配置基準計 (定員数) B との差 A
						正規職員 (③)	非常勤職員	派遣職員 (再掲)	非常勤職員 常勤換算 (④)	実人員数 (③+④) B	
法人本部				10.8	10.8	9.0	3.0	0.0	1.8	10.8	0.0
澄水園	55.8	24.0	79.8	7.8	87.6	65.0	42.0	2.6	21.7	86.7	▲ 0.9
黎明寮	28.1	15.1	43.2	2.0	45.2	37.0	11.0	0.0	6.6	43.6	▲ 1.6
あかつき	47.2	6.8	54.0	2.4	56.4	48.0	12.0	0.0	5.6	53.6	▲ 2.8
やすらぎの園	64.3	2.0	66.3	8.5	74.8	57.0	47.0	0.0	20.7	77.7	2.9
南台病院	76.3	43.8	120.1	9.1	129.2	94.0	65.0	6.0	28.5	122.5	▲ 6.7
のぞみ作業所	13.9	6.6	20.5	1.5	22.0	13.0	18.0	0.0	9.0	22.0	0.0
けやきの郷	48.6	8.2	56.8	7.4	64.2	47.0	35.0	0.0	17.8	64.8	0.6
熱海ゆとりあの郷	38.6	0.0	38.6	14.2	52.8	27.0	32.0	3.0	25.4	52.4	▲ 0.4
在宅サービス 総合センター	29.0	6.0	35.0	6.0	41.0	28.0	24.0	0.0	10.2	38.2	▲ 2.8
合 計	401.8	112.5	514.3	69.7	584.0	425.0	289.0	11.6	147.3	572.3	▲ 11.7

(2) 令和3年度 黎明会の障害者雇用状況

障害者雇用促進法に基づく算定基礎労働者数		470名
内 訳	正規職員	385名
	非常勤職員（常用）	52名
	非常勤職員（短時間労働）	33名
法定雇用率		2.3%
法定雇用障害者数		10名
黎明会障害者雇用数（法定換算数）		11名
黎明会の雇用率		2.4%

※常勤換算数

当該職員の週の所定労働時間数を正規職員の所定労働時間 38.75 時間で除して算出した人数。

※障害者雇用促進法に基づく算定基礎労働者数

週の所定労働時間数が週 30 時間以上を 1.0 名、週 20 時間以上 30 時間未満の者を 0.5 名、週 20 時間未満の者を 0.0 名として算出。

※障害者雇用促進法に基づく算定基礎労働者数については、南台病院、けやきの郷及び熱海ゆとりあの郷診療所の職員に対して除外率▲30%が適用。

【参考】各施設の障害者雇用を活用した清掃員（令和4年3月31日現在）

施設名	職種	非常勤職員	非常勤職員 （常勤換算）
あかつき	清掃員	3.0名	1.6名
澄水園	清掃員	5.0名	2.8名
のぞみ作業所	清掃員	1.0名	0.5名
合計		9.0名	4.9名

3 収支状況

(1) 法人全体の収支状況

(単位：千円)

	令和2年度 決算額	令和3年度 当初予算額	令和3年度 補正後予算額	令和3年度 決算額	令和3年度 執行率
法人総収入 ①	6,604,807	6,774,895	6,797,202	6,679,617	98.3%
法人総支出 ②	6,405,061	6,628,998	6,627,082	6,540,837	98.7%
収支差額 ① - ②	199,746	145,897	170,120	138,780	-
前期末支払資金 取崩額 ③	▲ 65,000	▲ 65,000	▲ 65,000	▲ 65,000	100.0%
収支差額 ① - ② - ③	264,746	210,897	235,120	203,780	-

- ※1 上記の総収入及び総支出については、内部取引を含んでおり、令和3年度決算における内部取引は、289,941千円である。
- ※2 令和3年度の「法人総収入」には、やすらぎの園における福祉医療機構からの借入金 50,000 千円を含んでいる。これは、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、通所事業の利用者が減少し、収支が悪化したため、福祉医療機構の「新型コロナウイルス対応支援資金」の借入れを行い資金収支に充当したものである。

(2) 法人全体の人件費の状況

※ 法人全体の人件費の年次推移

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
正規職員 (名)	415	416	430	434	425
非常勤職員(名) (常勤換算)	155	160	157	146	148
職員数合計(名)	570	576	587	580	573
人件費率 (%)	64.6%	65.9%	67.0%	67.2%	66.1%
金額 (千円)	3,427,532	3,513,186	3,687,577	3,684,060	3,695,859
対前年度増減額 (千円)	—	85,654	174,391	▲ 3,517	11,799

## 【1-1】法人本部総務局

### 1 運営方針

法人本部総務局は理事会、評議員会の開催をはじめ、各施設の予算・決算を統括し、かつ各施設に対する指導監督を行い、また、研修事業及び福祉開発振興援助事業を直接統括する。

### 2 収支状況

(単位：千円)

	令和2年度 決算額	令和3年度 当初予算額	令和3年度 補正後予算額	令和3年度 決算額	令和3年度 執行率
法人本部総収入	238,543	249,982	330,286	300,867	91.1%
法人本部総支出	190,805	232,243	221,461	220,222	99.4%
収支差額	47,738	17,739	108,825	80,645	-

※ 令和3年度決算額の収入には、熱海ゆとりあの郷の退居者遺贈金 55,000 千円が含まれている。

### 3 理事会、評議員会開催状況

#### (1) 理事会

##### ◎ 第1回理事会

(開催日：令和3年6月3日 場所：黎明ホール

出席：理事13名・監事2名)

##### ・議案

1. 令和2年度事業報告(案)の承認について
2. 令和2年度収支決算(案)の承認について
3. 理事及び監事の任期満了に伴う次期理事及び監事候補者の選定について
4. 職員に対する「新型コロナウイルス対策手当」の支給(案)の承認について
5. 令和3年度定時評議員会の招集(案)及び評議員会提出議案(案)について

##### ・報告事項

理事長及び常務理事の職務執行状況の報告

##### ◎ 第2回理事会

(開催日：令和3年6月24日 場所：黎明ホール

出席：理事11名・監事2名)

##### ・議案

1. 会長、理事長及び常務理事の選定について
2. 理事長及び常務理事の役員報酬(案)について
3. 東京都の令和3年度保護施設等整備費都補助金を受けて整備する、救護施設黎明寮の大規模修繕工事に係る入札・発注条件の設定(案)について

4. 救護施設あかつきの改築について
5. 社会福祉法人黎明会役員等又は評議員の賠償責任保険契約の締結について

◎ 第3回理事会

(開催日：令和3年12月16日 場所：黎明ホール

出席：理事13名・監事2名)

・議案

1. 救護施設黎明寮大規模修繕工事にかかる工事請負契約額の変更及び工事請負変更契約書(案)の締結について
2. 令和3年度上半期事業報告(案)の承認について
3. 令和3年度補正予算(案)の承認について
4. 社会福祉法人黎明会 就業規則の一部改正(案)の承認について
5. 社会福祉法人黎明会 救護施設あかつき管理規程の一部改正(案)の承認について
6. 福祉開発振興援助事業 令和4年度援助対象団体及び援助金額と令和3年度追加援助対象団体及び援助金額(案)の承認について
7. 令和3年度第2回評議員会の招集及び評議員会提出議案について

◎ 第4回理事会 (定款第29条第2項の規定に基づく理事会のみなし決議)

(決議日：令和4年3月18日)

・議案

1. 令和3年度第2次補正予算(案)の承認について
2. 令和4年度事業計画(案)の承認について
3. 令和4年度収支予算(案)の承認について
4. 幹部職員の人事(案)の承認について
5. 社会福祉法人黎明会「就業規則」の一部改正(案)の承認について
6. 社会福祉法人黎明会「組織規程」の一部改正(案)の承認について
7. 社会福祉法人黎明会「経理規程」の一部改正(案)の承認について
8. 社会福祉法人黎明会「総務局長、施設長級、副施設長級及び課長級職員の年俸制度に関する規程」の一部改正(案)の承認について
9. 社会福祉法人黎明会「訪問介護ステーションみなみだい(居宅介護・重度訪問介護)運営規程」の一部改正(案)の承認について
10. 社会福祉法人黎明会「地域生活支援センター澄水運営規程」の一部改正(案)の承認について
11. 介護福祉士実務者研修課程の定員増の承認について
12. 令和3年度第4回評議員会の招集(案)及び評議員会提出議案(案)について



◎ 書面による理事会（定款第 29 条第 2 項の規定に基づく理事会のみなし決議）  
（決議日：令和 3 年 5 月 18 日）

・議案

1. 評議員選任・解任委員会委員の選任(案)について
2. 社会福祉法人黎明会「給与規程」の一部改正(案)の承認について

◎ 書面による理事会（定款第 29 条第 2 項の規定に基づく理事会のみなし決議）  
（決議日：令和 3 年 9 月 9 日）

・議案

1. 小平市の障害者の地域生活支援拠点等事業受託にかかる協定の締結とこれに伴う黎明会の運営規程の一部改正(案)の承認について
2. 東京都の令和 3 年度保護施設等整備費都補助金を受けて整備する救護施設黎明寮の大規模修繕工事に係る入札結果及び工事請負契約書(案)の締結について

◎ 書面による理事会（定款第 29 条第 2 項の規定に基づく理事会のみなし決議）  
（決議日：令和 3 年 10 月 18 日）

・議案

1. 障害福祉サービス指定就労継続支援 B 型事業所のぞみ作業所運営規程の一部改正(案)の承認について

◎ 書面による理事会（定款第 29 条第 2 項の規定に基づく理事会のみなし決議）  
（決議日：令和 4 年 1 月 28 日）

・議案

1. 介護老人保健施設けやきの郷における介護保険法に基づく訪問リハビリテーション事業及び介護予防訪問リハビリテーション事業実施に伴う定款の一部改正(案)の承認について
2. 社会福祉法人黎明会 定款別紙(定款第 6 章第 3 1 条第 2 項)の一部改正(案)の承認について
3. 令和 3 年度第 3 回評議員会の招集(案)及び評議員会提出議案(案)について

(2) 評議員会

◎ 定時評議員会

（開催日：令和 3 年 6 月 24 日 場所：黎明ホール

出席：評議員 12 名・監事 2 名）

・議案

1. 令和 2 年度事業報告(案)の承認について
2. 令和 2 年度収支決算(案)の承認について
3. 理事及び監事の任期満了に伴う次期理事及び監事の選任(案)の承認について

- 4. 職員に対する「新型コロナウイルス対策手当」の支給(案)の承認について
- ・ 報告事項
- 次期評議員の決定についての報告

◎ 第2回評議員会

(開催日：令和3年12月16日 場所：黎明ホール  
出席：評議員15名・監事2名)

- ・ 議案
- 1. 令和3年度上半期事業報告(案)の承認について
- 2. 令和3年度補正予算(案)の承認について

◎ 第3回評議員会 (定款第13条第4項の規定に基づく評議員会のみなし決議)  
(決議日：令和4年2月7日)

- ・ 議案
- 1. 介護老人保健施設けやきの郷における介護保険法に基づく訪問リハビリテーション事業及び介護予防訪問リハビリテーション事業実施に伴う定款の一部改正(案)の承認について
- 2. 社会福祉法人黎明会 定款別紙(定款第6章第31条第2項)の一部改正(案)の承認について

◎ 第4回評議員会 (定款第13条第4項の規定に基づく評議員会のみなし決議)  
(決議日：令和4年3月25日)

- ・ 議案
- 1. 令和3年度第2次補正予算(案)の承認について
- 2. 令和4年度事業計画(案)の承認について
- 3. 令和4年度収支予算(案)の承認について

(3) 評議員選任・解任委員会

◎ 第1回評議員選任・解任委員会

(開催日：令和3年5月25日 場所：黎明ホール  
出席：理事長・常務理事2名・評議員選任・解任委員4名)

- ・ 議案
- 1. 次期評議員の選任について

4 ガバナンスの強化等について

(1) 施設に対する法人本部からの内部監査について

当法人の各施設・事業所に対して、事業運営の適正化を図るために令和2年度に引き続き、法人本部による各施設に対する内部監査を行った。施設・事業所の組織や規程、運営管理、利用者サービス等について精査し、改善すべき点

について改善を図るよう指導し、施設・事業所の適切な運営の推進を図った。

#### ア 令和3年度内部監査実施状況

実施日	施設・事業所名
6月29～30日	介護付有料老人ホーム 熱海ゆとりあの郷
7月26～28日	診療施設 南台病院
8月23・26日 (延期の後、中止)	障害者支援施設 澄水園
9月9日	指定就労継続支援B型事業所 のぞみ作業所
9月28～29日	救護施設 あかつき
10月13～14日	救護施設 黎明寮
10月27日	在宅サービス総合センター 指定居宅介護支援事業所
11月10～11日	介護老人保健施設 けやきの郷 通所リハビリテーション事業所
12月22～23日	特別養護老人ホーム やすらぎの園 通所介護事業所
1月19日	在宅サービス総合センター 訪問看護ステーション
1月31日 (中止)	在宅サービス総合センター 訪問介護ステーション
2月17日 (中止)	在宅サービス総合センター 地域生活支援センター澄水

#### イ 主な指摘事項 (令和3年度)

内部監査は年間計画に基づき、東京都の指導検査基準の各項目に沿って実施した。うち、監査結果によれば各施設・事業所ともに指導検査基準に準拠し、適切な運営及びサービス計画に基づく支援を通して利用者サービスの質の向上に努めていた。人員に関する基準では、職種別の基準や必要とされる従業者数を満たしており、運用に必要な法人の定める定数に対する職員数は、若干の過不足はあるものの、概ね維持され、暦月ごとに作成される勤務表に基づき勤務体制が確保されていた。利用契約については、運営規程の概要やサービスの選択に資する重要事項説明書の交付、説明、文書による同意等、締結までのプロセスが適切に実施されていた。また、診療報酬や介護給付費等の算定及び取扱いは、厚生労働大臣の定める施設基準に適合し、かつ基準を満たすものについて適切に実施されていた。

個々の事項についてみれば、規程、マニュアル等の整備状況は良好で、指導検査基準で求められる内容が網羅されていた。ただし、一部に見直しが滞り、形骸化している状況が見受けられた。規程、マニュアル等に沿った業務遂行は業務の質を担保するとともに、法令遵守の意識を高め基本的姿勢を培うことに直結するため、定期的に整備し活用していくことが必要である。

業務日誌や利用者に関する記録等、記録類は適切に作成、整備されており、個人情報保護の観点からも適切な管理が行われていた。一方、文書類のパソコン上での一元的管理が促進されつつあることから、文書管理システムの構築等による標準化を図り、運用していくことが望まれる。

勤務表は、施設間での様式の違いが顕著であり、勤務変更時の訂正方法も様々であった。勤務表は、関連法に基づく各種サービスの人員配置基準を客観的に確認するための公的書類であり、勤務命令指示書である。そのため、管理者の決裁とともに勤務計画及び実績を正確に残すことができる様式への改善を行う必要がある。

諸会議、委員会は定期的開催され議事録が作成されていたが、中には、単に連絡会や報告会で終わっている実態も浮き彫りとなった。諸会議や委員会等は、事業所としての方針や基本的な考え方等を発信する場であると同時に、職員の活動への参加や情報共有を通して、組織の一員としての自覚や参画意識の醸成に資するものである。今後、本来の目的や趣旨に沿った運営により充実を図っていくことが求められる。令和3年度に改正された障害者総合支援法や介護保険法で義務化された虐待防止のための措置については、各施設・事業所ともに順次取り組みが進められていた。

苦情や事故防止については規程やマニュアルに則り適切に処理が行われていた。なお事故防止については、各施設ともに統計的処理や統計に基づく分析が定着したものの、多くが要因分析や再発防止策の効果検証をするまでには至っていなかった。

研修については、各施設・事業所ともに研修計画に基づき、職員への研修の機会が提供されていたが、研修実施記録の整備状況には施設による差が認められた。今後は、研修実施記録の整備とともに、効果測定による評価を実施し、より研修内容の浸透を図っていくことが重要である。

## (2) 規程とマニュアルの見直し等について

当法人の運営を円滑かつ効率的、合理的なものとするため、随時、規程の見直しを行っている。令和3年度は小平市の障害者の地域生活支援拠点等事業を行うため、地域生活支援センター澄水（一般相談）（障害児相談）（特定相談）、障害者支援施設澄水園（生活介護・施設入所支援）、指定短期入所事業（併設型・空床利用可）澄水園、障害福祉サービス指定就労継続支援B型事業所のぞみ作業所の「運営規程」の改正を行った。12月には救護施設あかつきの「管理規程」を改正するほか、今後も「就業規則」や「給与規程」の見直しをはじめ、「文書管理規程」、「印章管理規程」の制定などにも取り組んでいく。

この他、黎明会の利用者の処遇改善を図るため、次のマニュアル等を整備した。

- |                      |               |
|----------------------|---------------|
| ①個人情報保護マニュアル         | ※令和2年 12月1日施行 |
| ②苦情等対応共通マニュアル        | ※令和3年 2月1日施行  |
| ③認知症ケアマニュアル          | ※令和3年 3月1日施行  |
| ④職場におけるハラスメント対策マニュアル | ※令和3年 4月1日施行  |
| ⑤安全衛生管理規程            | ※令和3年 6月1日施行  |
| ⑥虐待の防止のための指針         | ※令和3年 10月1日施行 |

### (3) 新型コロナウイルス感染症対応について

感染者が発生した場合等の報告・連絡体制、各施設の対応、業務優先度などについて法人感染症防止対策委員会などで検討し、職員本人がPCR検査の対象となった場合又は濃厚接触者となった場合、同居家族がPCR検査の対象となった場合又は濃厚接触者となった場合の対応をまとめた。

なお、東京都が協力事業者として決定したPCR検査事業所・研究所2社と検体検査業務委託を締結し、職員本人や同居家族がPCR検査対象等となった場合などに施設の職員や入所者のPCR検査を行い、感染の有無を確認している。

また、澄水園、黎明寮、あかつき、どりーむ・のぞみ及び第2どりーむ・のぞみの各施設は、国の指導により、毎週、職員のPCR検査を実施している。

引き続き新型コロナウイルス感染症拡大防止のための対策を徹底していく。

## 5 老朽施設の改修、改築計画について

令和2年度に続き令和3年度の財政状況においても建物・設備の減価償却額に見合う施設整備積立金の大幅な積立不足が生じている。

具体的には、令和3年度決算で総額124億円の減価償却累計額があり、そのうち施設整備について公的補助の対象となる障害者施設及び保護施設、高齢者施設分が59億円、それ以外の施設が65億円となっている。これに対し、令和3年度の保有資金、建物改築積立金及び現預金を合わせた額は約31億円である。

令和3年度以降も引続き財政基盤の強化に向けて施設整備等積立金の確保に取り組む必要がある。

一方で、当法人が設置運営する施設の中で、建築後約30年～50年余が経過している南台病院、あかつき、熱海ゆとりあの郷、黎明寮、澄水園等は、老朽化が進んでおり、補修や設備の更新等の経費が年々増大してきている。今後この状況が続けば、補修費が施設の経営を圧迫することが考えられることから、計画的な修繕による予防保全や建物延命化のための大規模修繕及び改築を進める必要がある。

国と都の補助金を利用した大規模修繕や改築について、令和3年度は黎明寮の大規模修繕を行ったほか、あかつきの改築申請を行っている。

しかしながら、熱海ゆとりあの郷については国による補助制度が無く、南台病院については医療施設近代化施設整備事業費補助金があるものの、利用するためにはいくつかの条件を満たさなければならない。このことを踏まえたうえで、今後の収支の改善状況を見ながら建替えに伴う借入金返済に見合う収益が確保される見込みとなった段階で建替えに着手することとしている。

### (1) 救護施設あかつきの改築等計画について

あかつきについては、昭和55年竣工しており建築後42年が経過し、かつ、昭和56年以前の旧耐震基準で建てられている。平成25年度には大規模修繕（水回り改修工事と給湯設備工事整備）を行っているが、築後約42年が経過して施設の老朽化が進み、入所者のプライバシーの保護や生活の質の向上、入所者の高

齢化にともなう施設のバリアフリー化を進めるためには、現状の建物設備では対応が困難である。また、立川断層に隣接しており、この断層が動けば建物の崩壊を生ずる事態を考慮する必要がある。このことから、改築の構想(マスタープラン)を策定し、令和2年6月に令和3年度社会福祉施設等整備事業費補助金(改築)の申請を行ったが、令和3年度事業としては補助金の内示が示されなかったため、引き続き、令和3年6月に令和4年度施設整備費補助金申請を行った。令和4年度の国庫補助金の内示は令和4年6月に予定されていることから、内示を受けた後は速やかに事業に着手できるよう、令和3年12月に大規模開発事業に伴う土地利用構想を小平市へ提出するとともに、令和4年1月に条例の規定に従い周辺住民への説明会を開催するなどの手続きを進めている。

なお、令和4年度の国庫補助金の内示が無かった場合は、令和4年6月に令和5年度施設整備費補助金の申請を行う。

## (2) 救護施設黎明寮の改修等について

黎明寮は平成3年竣工であるが、令和2年6月18日に開催された第5回黎明会老朽施設改築検討委員会での検討を経て、リフォーム等(空調設備、給排水管、屋上防水、外壁塗装、利用者用トイレ・洗面所改修、職員トイレ増設、地域(通所)利用者用談話室の新設、各居室の壁紙等の整備、食堂・階段床材張替、高圧電線取替、自家用発電機部品交換、ボイラー交換他)のマスタープランを作成し、令和2年6月26日に施設整備費補助金(大規模修繕)の申請を行った。令和3年4月1日付で国・東京都補助の内示があり、8月25日に建設事業者の入札を行い、理事会の承認を得て、9月22日に株式会社富士工と工事請負契約(2億5,520万円)を締結した。しかしその後、天井や壁にアスベストを含む接着剤が使用されていることが判明し、この処理を追加した工事契約の変更(2億6,805万円、1,285万円増)を行い、令和4年3月10日に改修が完了した。

## 6 経営基盤の強化

### (1) 熱海ゆとりあの郷の経営改善について

#### ア 経営体質の改善について

入居者が毎月負担する管理費は、令和元年10月から3年計画で管理費の引上げを実施しており、令和3年度は改定の最終年であり、3度目の引上げにより収支は改善しつつある。

熱海ゆとりあの郷診療所については看護師不足から入院病床の維持が困難となり、保健所の指導を受けて令和2年8月より入院病床の休止措置を取っているため、令和3年4月より新規に熱海市内の病院2か所と入院病床確保のための提携契約の締結を行っている。

#### イ 熱海ゆとりあの郷の広報の強化等

熱海ゆとりあの郷の入居希望者の募集については、平成27年度から熱海ゆ

とりあの郷と法人本部とが連携し、雑誌「婦人公論」への記事掲載、高島屋の会報に「ゆとりすと」を同封するなど広報活動の強化を行ってきた。また、空室の計画的な改修、入居相談室の移転・整備等の受け入れ体制の整備を行っているが、退居者の増加と新規入居者減により空室が増加し、入居率が80%を切る状況になっている。このため、新規入居者の獲得に向けた広報強化を図るため、令和3年度は、入居を検討している人向けに広報紙「ゆとりすと」の内容を見直し、令和3年10月から令和4年3月にかけて、東京23区全域及び小平市、熱海市、小田原市の日本経済新聞購読者を対象に新聞折込みにより配布し、居室販売の営業強化を行っている。また、新型コロナウイルス感染症拡大の状況から見学を控える傾向が強いため、資料送付や電話説明及び個別対応案内を強化し、空室解消による入居率向上に努めている。

【熱海ゆとりあの郷広報活動実績】

①広報紙「ゆとりすと」新聞折込み

配布日	配布地域	配布号	配布部数
10月31日	世田谷区、杉並区	Vol184	51,850部
11月7日	文京区、小平市、小田原市、熱海市	Vol184	18,150部
11月28日	大田区、練馬区、江東区、品川区、新宿区	Vol185	65,000部
12月26日	墨田区、豊島区、目黒区、荒川区、台東区、中野区、北区、港区	2021.12	60,000部
1月23日	渋谷区、江戸川区、足立区、葛飾区、板橋区、中央区、千代田区	2022.1	55,000部
2月20日	世田谷区、杉並区、文京区、小平市、小田原市、熱海市、	2022.2	70,000部
3月13日	大田区、練馬区、江東区、品川区、新宿区	2022.3	65,000部
合計			385,000部

※ゆとりすと会員には毎号送付

②高島屋ダイレクトメール・・・令和3年10月 150,000部  
令和4年1月 150,000部

③婦人公論記事掲載・・・2022年2月号 約80,000部

※記事切抜きを印刷し、ゆとりすと会員に送付

(2) 南台病院の経営改善について

南台病院の経営改善は、「南台病院の今後のあり方に関する懇談会報告書」(提言)に沿った経営改善策を着実に実行した結果、平成30年度決算から収支が黒字に移行した。今後、施設の老朽化に対応した改築等に向けて、所要の資金確保のための一層の経営改善対策を推進していくこととしている。

令和3年度当初計画においては、依然として新型コロナウイルス感染症の収束がみられない状況の中で、令和2年度には入院患者が減少したが、令和3年度には1日平均入院患者数を109名(令和2年度105名)に、1日平均外来患者数

を100名（令和2年度83名）に目標を引き上げて設定した結果、令和3年度は、1日平均入院患者数107.1名、1日平均外来患者数84.2名と若干の改善がみられた。これは、新型コロナウイルス感染症拡大による受診が控えられている中では評価すべきものとする。健康診断収入においては、感染症対策をしつつ1日の受診者数や実施時間を増やしたことで、受診者数が昨年度に比べ約1,000名の増となり、健診収益増に繋がった。

南台病院の決算（令和2年度及び3年度）状況

		入院	外来	合計
1日平均患者数	令和2年度決算	104.8名	83.3名	—
	令和3年度決算	107.1名	84.2名	—
1日平均診療単価	令和2年度決算	23,870円	5,523円	—
	令和3年度決算	25,063円	5,748円	—
医療事業収入	令和2年度決算	919,420千円	137,456千円	1,056,876千円
	令和3年度決算	978,027千円	148,857千円	1,126,884千円

(3) 職員処遇の改善、適正化等について

ア 期末手当の支給月数について

正規職員に対する令和3年度の期末手当は、減価償却額に見合う施設整備積立金が15%に満たないことと、老朽化施設の改築計画準備があること等を踏まえて、年間支給月数3.51か月分（令和2年度と同支給月数）で労働組合と令和3年5月25日に妥結した。

イ 新型コロナウイルス対策手当の支給について

令和2年に始まった新型コロナウイルス感染症が、1年以上経過しても収束しない状況の中、職員の新型コロナウイルスの感染防止のための尽力に対して、令和3年7月1日現在において在職する課長級以上の管理職を除く正規職員及び非常勤職員へ7月1日に新型コロナウイルス対策手当を支給した。

※支給額及び支給対象人数

	常勤換算	支給額	支給対象人数
正規職員		20,000円	377名
非常勤職員	0.8以上	10,000円	53名
非常勤職員	0.8未満	5,000円	197名

ウ 福祉・介護職員処遇改善加算について

令和3年度も福祉・介護職員に対して処遇改善加算が実施されたことから、東京都等に対して処遇改善加算の申請を行った。具体的な処遇改善の加算内容は以下のとおりである。



- (ア) 正規職員について、平成 26 年度にいわゆる通し号俸制から職務職階制に切替えた際の職務職階制を上回った分の現給補償額を処遇改善の加算対象とした。
- (イ) 職務職階制が適用されている職員の定期昇給額並びに特別昇給額を処遇改善の加算対象とした。
- (ウ) 平成 30 年度から実施した国家資格等を保有する正規職員に対する最大 6 号給の号給加算制度による加算した号給分を処遇改善の加算対象とした。
- (エ) 借家に居住する正規職員に対して実施する住居手当の改定については、従前の住居手当 12,000 円から支給上限 25,000 円に引き上げた差額分を処遇改善の加算対象とした。
- (オ) 非常勤職員の時給について、厚生労働省が示した最低賃金を基礎額とし、非常勤職員の確保が困難な場合はこの基礎額に 5% の上乘せ加算した額を当法人の最低時給としていることから、この上乘せ加算した額を処遇改善の加算対象とした。さらに、平成 29 年度に導入した国家資格等保有者に対する処遇改善及び学歴処遇改善並びに特別昇給額及び、令和元年 12 月に行った非常勤職員確保のための大幅な時給上乘せ改定も加算対象とした。

#### エ 新規採用職員の試用期間の見直しについて

新規採用職員については、当法人就業規則第 6 条において、試用期間を 3 か月と定めており、この期間に新規採用職員の職務遂行能力や職務の適性、職場における協調性を見極めを行っていた。

しかしながら、勤務状況が芳しくない新規採用職員については、試用期間の満了をもって勤務終了とする場合、勤務を終了とする 1 か月前に本人へ通告することを踏まえると、実質的には正規職員本採用への適性について 2 か月間で見極めることが必要となる。

引続き職員として勤務させることが適当と認めることは、研修や引き継ぎ、職場への順応等に 1~2 か月は必要であり、適格性、職務能力を判定する期間としては 1 か月程度しかないため、判断が困難なケースが多くなっていた。

このため、試用期間を 6 か月に延長し、この間に本人の適性を判断することが妥当と思料した。

改正後の就業規則は、令和 3 年 1 月 1 日から施行した。

#### (4) 法人内の経営システムの基盤整備

##### ア 人事・給与管理システムの刷新

現在利用している人事・給与管理システムは導入後 8 年を経過し、システムとして現在の当法人の諸手当支給に対応しきれていないため、手作業が多く、業務が煩雑になってしまっている。今後、人事・給与業務の効率化を図り、さらに処遇改善交付金計算等の付加機能をもたせるために、人事・給与管理システムの見直しを進めている。

## 7 福祉開発振興援助事業の実施

令和3年7月12日に第1回選考委員会を開催し、令和2年度に事業を実施した16団体から提出された事業完了報告書に基づき事業報告を行った。また、令和4年度の募集と令和3年度の追加募集について決定した。

委員会の決定を受けて、黎明会ホームページへの掲載、社会福祉協議会への募集チラシ配布依頼、福祉新聞への掲載（令和3年8月2日）などでの公募を行うとともに、小平市社会福祉協議会を通じて近隣の社会福祉協議会にもチラシを置いた。

令和元年度からの広報の取り組みとして、小平市市民活動支援センターに登録した市民活動団体へFAX又はメールで募集要項を送り周知を図ったほか、令和2年度からは、ボランティア・市民活動センターたちかわの登録団体、東村山市役所が発行した「東村山市の市民活動団体」に掲載された市民活動団体、東大和市社会福祉協議会の「東大和市内NPO法人一覧表」に掲載されたNPO法人へFAX又はメールで募集要項を送り周知を図った。

令和4年度募集については12件（5,203,400円）の応募があり、令和3年度追加募集についても19件（8,183,800円）の応募があった。これらの応募について、令和3年11月22日に開催された第2回選考委員会で審議を行った。

交付決定は、令和3年12月16日に開催された理事会の承認を受けて理事長が行った。

### \* 福祉開発振興援助事業

- ・ 援助金総額 1,000万円

（援助対象件数は20件程度、1件あたりの援助上限額は50万円、特に必要と認められる場合に限り、最大80万円程度を限度として援助）

- ・ スケジュール

第1回福祉開発選考委員会	令和3年7月12日開催
援助対象事業募集（追加募集を含む）	令和3年8月1日～9月30日
第2回福祉開発選考委員会	令和3年11月22日開催
援助対象事業発表	令和3年12月21日通知
令和3年度追加援助金交付	令和3年12月28日
令和4年度援助金交付	令和4年4月20日

\* 福祉開発振興援助事業 援助決定実績

(単位：千円)

対象年度		援助団体名	援助額	援助合計額
令和3年度	一般募集	① 公益財団法人 国際障害者年記念ナイスハート基金	500	6,950
		② 一般社団法人 発達障がいファミリーサポート Marble	800	
		③ 一般社団法人 グリーンボード	500	
		④ NPO法人 両全トウネサーレ	500	
		⑤ 一般社団法人 日本色彩環境福祉協会	300	
		⑥ NPO法人 ぶるーべりー愛犬ふぁみりー協会	400	
		⑦ NPO法人 東京ソテリア	500	
		⑧ ひだまりの会	500	
		⑨ 在宅ホスピスケア・ボランティアさくら	180	
		⑩ 公益財団法人 全国篤志面接委員連盟	500	
	追加募集	⑪ 越前市 「みんなの食堂」 実行委員会	400	
		⑫ 東大和市レクリエーション協会	400	
		⑬ 勝亦麻子	500	
		⑭ 子ども・子育てカフェどーなっつ	40	
		⑮ 小平市脳卒中患者友の会 (ピアズ小平)	130	
		⑯ カモミール	400	
		⑰ 早期親子支援 GROW	400	
令和4年度	一般募集	① 東大和市レクリエーション協会	400	3,600
		② 在宅ホスピスケア・ボランティアさくら	300	
		③ 子ども・子育てカフェどーなっつ	100	
		④ 小平市ボッチャ協会	500	
		⑤ カモミール	400	
		⑥ 早期親子支援 GROW	400	
		⑦ 一般社団法人 発達障がいファミリーサポート Marble	500	
		⑧ 小平アビリティクラブたすけあい	500	
		⑨ 公益財団法人 国際障害者年記念ナイスハート基金	500	

8 小平市地域生活支援拠点等協定書の締結

小平市では令和3年10月1日から障がい児者の重度化、高齢化に対応するとともに親亡き後の障がい者の安定した生活を確保することを図り、障がい児者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるように、地域の複数の事業者が機能を分担して支援を行う体制を構築するため、小平市地域生活支援拠点等事業を開始した。

当法人は小平市と協定を締結し、この事業に定める居住支援のための5つの機能、①相談、②緊急時の受入れ・対応、③体験の機会・場、④専門的人材の確保・育成、⑤地域の体制づくりのうち、①相談、②緊急時の受入れ・対応、⑤地域の体制づくりの機能を担うこととした。

当法人の小平市内のすべての施設を対象とし、その中で運営規程に掲げて事業を行う事業所と担う機能は以下のとおり。

対象事業所

	① 相談	② 緊急時の 受入・対応	③ 体験の 機会・場	④ 専門的人材 の確保育成	⑤ 地域の 体制づくり
※は令和4年4月より実施予定					
地域生活支援センター澄水 (一般相談, 特定相談, 障害児相談)	○	○	※○		○
訪問介護ステーションみなみだい		○			○
澄水園 (生活介護・施設入所支援)		○			○
澄水園 短期入所(併設型・空床利用可)		○			○
のぞみ作業所					○

9 契約事務の適正化等

契約事務については、平成26年度から適正化を進めているところであるが、令和2年度も一層の適正な執行に努めた。

(参考) 令和3年度における主な入札結果

(単位：円)

入札件名	実施日	予定価格 (税込)	契約金額 (税込)
介護付き有料老人ホーム 熱海ゆとりあの郷 居室3室の改修工事・内装工事	4/12	9,764,700	8,690,000
診療施設 南台病院 2号館空調設備改修工事	6/18	30,927,600	29,700,000
介護付き有料老人ホーム 熱海ゆとりあの郷 一時介護室1階, 2階20室へのクローゼット設置	6/18	11,000,000	10,890,000
診療施設 南台病院 2号館空調設備改修工事のファイナンスリース契約	7/30	31,017,800	30,547,440
救護施設 黎明寮 大規模修繕工事	8/25	291,582,860	255,200,000
厨房除外設備ばっ気ブロワー等工事	8/26	4,521,000	4,400,000
特別養護老人ホーム やすらぎの園 公用車購入	9/30	2,090,000	1,872,120
介護付き有料老人ホーム 熱海ゆとりあの郷 居室3室の改修工事・内装工事	10/8	8,919,900	8,745,000
診療施設 南台病院 ラップトップ型血液分析システム購入	10/28	2,267,100	1,947,000
福祉施設 業務支援ソフト 「ワイズマン IDC システム」リース契約	12/17	19,686,700	19,635,000
介護付き有料老人ホーム 熱海ゆとりあの郷 一時介護室見守りセンサー及びナースコール導入工事	2/4	14,903,900	13,750,000
介護付き有料老人ホーム 熱海ゆとりあの郷 居室3室の改修工事・内装工事	2/18	8,518,400	7,976,100
法人本部総務局 プリンター購入	2/24	2,499,779	2,087,800
障害者支援施設 澄水園 福祉車両購入	2/25	4,198,700	3,690,000
障害者支援施設 澄水園 ロッカーチェスト購入	2/25	10,764,600	10,434,600
法人本部総務局 複合機リース契約	3/24	2,201,100	2,151,600

## 10 人材育成と研修

### (1) 職員への研修実施状況

令和3年度法人研修実績

(単位：名)

研修 番号	分類	日時 (研修方法)	研修名 (対象者)	黎明寮	あかつき	澄水園	やすらぎ	在宅 サービス	けやき	南台 病院	のぞみ	熱海 ゆとりあ	本部	合計
1	職 階 別 研 修	4月1日 (集合)	理事長講和(管理職) 新任研修①	7	8	7	6	5	7	9	1	2	6	58
2		4月中 (通信)	新任研修②	2	0	2	4	1	4	5	0	4	2	24
3			新任研修③	2	0	2	4	1	4	5	0	4	2	24
4		4月～9月 (通信)	管理職研修(目標管理) 中間報告提出	0	3	0	3	2	1	4	0	0	0	13
5	専 門 研 修	5月18日 (ハイブリッド)	実践研究研修①	4	6	4	4	2	1	4	3	2	1	31
6		5月中 (集合・動画視聴)	権利擁護研修	21	5	42	75	8	38	7	0	10	2	208
7		6月中 (動画視聴)	労務管理	10	3	20	68	4	4	7	0	1	2	119
8		7月26日 (施設単位集合)	実践研究研修②	4	4	4	4	2	1	2	3	2	1	27
9		8月中 (通信)	資格取得動機づけ 研修	22	12	15	39	21	28	0	5	0	2	144
10	職 階 別 研 修	9月中 (通信)	勤続4年目・5年目 研修	1	0	7	3	4	8	6	0	3	0	32
11		10月中 (通信)	新任フォローアップ	2	0	2	4	1	4	5	0	4	2	24
12	専 門 研 修	10月13日 (施設単位集合)	実践研究研修③	4	4	4	3	2	1	2	2	2	1	25
13		12月～2月 (全職員通信)	感染症防止対策研修	48	62	104	102	54	81	157	31	55	10	704
14	職 階 別 研 修	11月～12月 (通信)	勤続3年目研修	1	2	0	4	1	4	6	2	1	0	21
15		12月～1月 (通信)	勤続10年 15年目研修	0	2	4	3	4	2	2	1	1	0	19
16		10月5日・12月3日 (集合)	施設長研修 中長期計画プレゼン	2	2	3	2	1	1	1	1	1	4	18
17	専 門 研 修	11月25日 (入れ替え集合)	実践研究発表大会	7	8	9	8	13	11	7	3	4	4	74
18		11月18日・26日 (集合)	グリーンケア①②	1	2	2	3	4	1	0	0	1	1	15
19		12月中	個人情報保護法	15	3	44	31	7	10	7	0	1	2	120
20	職 階 別 研 修	1月18日AM/PM 1月20日・1月27日 (Zoom)	係長研修	8	9	10	7	7	5	11	0	4	3	64
21		1月～2月 (通信)	勤続2年目研修	1	1	6	5	3	8	15	0	5	0	44
22		2月～3月	管理職研修 プレゼン動画作成	1	0	1	3	2	1	2	1	1	1	13
23		3月中 (通信)	勤続25年以上 研修	4	3	3	0	0	1	1	2	0	0	14
24	専 門 研 修	3月中 (動画視聴)	メンタルヘルス研修	27	5	32	24	10	12	14	0	1	2	127
25		随時	施設間交流研修	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
合計				194	144	327	409	159	238	279	55	109	48	1,962

新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を講じての法人研修は、2年目に突入し、対面方式、Zoom利用ライブ、または対面とZoomを併用したハイブリッド方式、さらには動画視聴といった様々な方式を取り入れ、内容に合わせ、より効果が上がり、さらには、できる限り多くの職員が受講できるよう工夫を加えた。

資格取得動機づけ研修が従来に比し受講生数が増えたのは、合格者のアドバ

イス集を各職場で回覧形式をとったことによる。

昨年に引き続き、感染症対策研修については職種、雇用形態を問わず、黎明会全職員が受講した。

また、勤続年数別、職階別研修においても、レポート提出の形式で行ったため、集合型研修では勤務の関係で全員が参加することが出来ないという欠点を補うことができた。

令和 3 年度は、研修の一部に動画作成という課題を掲げ、取り組みが始まったことは、コロナ対応が生み出したチャレンジの機会といえる。

## (2) 介護職員初任者研修

令和 3 年度は、昨年度に引き続き、コロナ対策として国及び都が認めている臨時的代替方法による履修により、面接授業の回数を 15 回から 8 回に半減させた形で、春・秋の 2 コース開催した。春コースは 8 名、秋コースは 17 名が修了した。

## (3) 介護福祉士実務者研修

社会福祉士及び介護福祉士法の改正により、平成 28 年度の介護福祉士国家試験から受験資格として、3 年以上の実務経験を有することと介護福祉士実務者研修の修了が義務付けられている。

当法人は「介護福祉士実務者研修養成講座」を令和元年度より開講している。

3 年間の合格者数等は以下の通りである

年度	修了者数	受験者数	合格者数	合格率
令和元	11 名	8 名	7 名	87.5%
令和 2	10 名	7 名	6 名	85.7%
令和 3	11 名	7 名	7 名	100.0%

## (4) 実践研究発表大会実施の再開

当法人の全施設が参加して日常業務の実践における課題の改善・解決に取り組む「実践研究発表大会」は令和元年まで 10 回の開催を続けてきたが、コロナ禍により令和 2 度は開催を見送った。

コロナ対策も定着した令和 3 年度は、実践研究研修を ZOOM 導入や分散型対面方式で 3 回実施し、11 月 25 日（木）に実践研究発表大会を開催した。

<発表チーム・発表表題一覧>

No	チーム名	表題
1	介護老人保健施設 けやきの郷	担当制リハビリテーションに変更したことにより、通所リハビリテーション利用者のADL及び移動能力が向上した症例
2	指定就労継続支援B型事業所 のぞみ作業所	合理的配慮について ～作業支援の観点から～
3	障害者支援施設 澄水園	強度行動障害利用者への支援アプローチ
4	救護施設 黎明寮	相手の言語を認め合って
5	救護施設 あかつき <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">1位</span>	精神疾患を抱え、整理整頓が苦手な利用者への支援 ～環境整備月間の取り組み～
6	在宅サービス総合センター 地域包括支援センター <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">3位</span>	週1回自主グループで行う運動の効果 ～介護予防に必要な要素とは～
7	診療施設 南台病院	排泄ケアにおける感染防止対策への意識の向上を目指して ～アンケート調査を実施してみよう～
8	介護付き有料老人ホーム 熱海ゆとりあの郷	ユマニチュードを用いた認知症ケア
9	特別養護老人ホーム やすらぎの園 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">2位</span>	コロナ禍における入居者と家族の繋がりを深めるために ～オンライン面会実施下におけるアンケート調査の結果から～

(5) 市民公開講座の実施見合わせ

近隣の期待に答えて、毎年開催してきた市民講座は、昨年に引き続き新型コロナウイルス感染症拡大を受けて、市民を集めての集合研修の開催を見送った。黎明ホールが介護施設の中に存在することに配慮した結果でもある。

しかしながら地域からの要望聞きとりにより、著名人を招聘してのオンライン講座や少人数を対象とした出張講座等、感染対策を講じた上で実現可能な方法を探っていきたい。

1.1 利用者・入所者等サービスの向上及び安全・安心確保への取り組み

(1) 感染症防止対策委員会

感染症防止対策委員会は毎月、あるいは必要に応じて開催し、地域周辺の感染動向や各施設での取り組み状況について情報共有を行った。委員会では、感染管理認定看護師等を中心に、新型コロナウイルス感染症だけでなく季節性感染症の予防対策について、施設ごとの行動計画に反映し実施した。令和3年度は、平常時の対策の重要性はもちろんのこと、新型コロナウイルス感染症対策の継続や感染症マニュアルに基づく防止策を高い意識をもって徹底して取り組むことができ、感染症全般の著しい減少を認めた。しかし、令和4年2月に入り、黎明寮における感染性胃腸炎に続き、あかつき、黎明寮、澄水園の利用者間において新型コロナウイルス感染症の集団発生が確認された。基礎疾患等のある利用者数名が入院となったが、施設内で療養の利用者についてはいずれも軽症であり、3月末には収束を迎えた。

今後はさらに、新型コロナウイルスに対するワクチン接種の促進とともに、職員・利用

者の健康チェックや環境消毒などの予防対策の強化、抗原・PCR 検査の適時活用を継続し、各種感染症の発生を最小限に抑えることができるよう努めていきたい。令和3年度の法人内感染症発症状況は下記の表のとおりである。

令和3年度法人内（利用者・職員）感染症発症状況

（令和3年4月1日～令和4年3月31日）

施設名 感染症	法人本部	澄水園	黎明寮	あかつき	やすらぎの園	南台病院	のぞみ作業所	けやきの郷	熱海ゆとりあの郷	総合センター 在宅サービス	エームサービス	合計
インフルエンザ A/B												
疥癬												
ノロウイルス												
マイコプラズマ性肺炎												
結核												
流行性角結膜炎				1								1
肺炎球菌感染症												
溶連菌感染症												
感染性胃腸炎			17									17
CD感染症												
Covid-19 感染症	利用者	18	36	43				2	2	1		102
	職員	14	12	3		4		5	4	1	1	44
合計		32	65	47		4		7	6	2	1	164

(2) 事業適正化委員会の開催

黎明会の事業全般を対象として、適切な福祉サービスの向上に努めるため外部の有識者（学識経験者2名、弁護士1名、民生委員・児童委員1名、元民生委員・児童委員1名）で構成する「事業適正化委員会」を、新型コロナウイルス感染症防止のため書面審議による形式で開催した。

令和3年度は、令和4年3月に開催し、3事案について利用者からの苦情等への黎明会の対応などが審議された。委員からは、黎明会の対応について意見が出され、それに対して施設から回答し、今後の運営に活かしていくこととした。

(3) 東京都福祉サービス第三者評価の受審

各施設が提供している福祉サービスの質の向上を図るために、澄水園、黎明寮、あかつき、やすらぎの園、けやきの郷、及びのぞみ作業所については福祉サービス第三者評価を受審した。

評価の視点が固定化しないように定期的に評価機関を変更しており、平成 28



年度までは「株式会社日本生活介護」、平成29年度から平成30年度までは「株式会社福祉規格総合研究所」、令和元年度から令和2年度までは「日本チャリティ協会」、令和3年度からは「株式会社ケアシステムズ」に変更して行った。受審結果を踏まえて業務改善に活用することとする。

#### (4) 防災対策

防災管理委員会を毎月開催し、会全体と近隣の防災対策等について検討し、以下の対策を講じた。

ア 非常時における小平地区の10日間分の燃料供給を新東産業株式会社と覚書の締結を行っている他、エームサービス株式会社との間で10日間分の食材及び食事提供を確保できるように協定書の締結を行い災害時に備えている。さらに、令和3年4月1日に締結した協定書では、現在の職員数に合わせ備蓄食数を増やしたほか、非常時の提供メニューのうち1日目から3日目までを固定して表示することに改めるなど見直しを行った。

イ 防火対象物点検(年1回、3月)

ウ 消防設備点検(年2回、7月・1月)

エ 東小川橋防災連の協力により黎明会総合防災訓練を実施

※秋季(令和3年12月頃)及び春季(令和4年2月頃)は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止した。

オ 小平消防署自衛消防訓練審査会は例年6月に実施され、黎明会自衛消防隊が参加し、優秀な成績を収めている。しかしながら、令和3年度も令和2年度に続き新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となった。

#### (5) 実習生・ボランティア受入れ状況

実習生は大学・専門学校等7校及び2機関(令和2年度2校2機関)から32名、延べ177名(令和2年度25名、延べ133名)を受入れ、専門職の育成に協力した。ボランティアは3名、延べ7名(令和2年度4名、延べ4名)をあかつきで受け入れた。

※ 令和3年度 実習生受入れ状況一覧 (単位:名)

	けやきの郷		在宅サービス		合計	
	人数	延べ人数	人数	延べ人数	人数	延べ人数
白梅学園大学	4	40			4	40
東京音楽大学			4	8	4	8
武蔵野美術大学	8	56			8	56
東京医療保健大学			6	18	6	18
大原学園	2	35			2	35
医学アカデミー	1	5			1	5
首都医校			4	12	4	12
小平市職員体験研修	1	1			1	1
ケアマネ研修			2	2	2	2
合計	16	137	16	40	32	177

## 【2】障害者支援施設 澄水園

### 1 施設の運営方針

澄水園（生活介護・施設入所支援・短期入所）

澄水園は、「障害者総合支援法」の基本理念や、「障害者差別解消法」の趣旨である障がいのある人もない人も共に生きる社会をつくるという目的を浸透させるため、権利擁護、虐待防止に努め、そしてなによりも利用者の視点に立ち個々の利用者の意思を尊重し、思いやりのある関わりに重点を置いて支援するサービスを提供してきた。

令和3年度も個別支援計画に沿った支援を行うとともに、利用者の高齢・重度化に対応した医療面のケア・健康管理について、当法人内の南台病院と連携し、医師の派遣や健康診断などを実施した。

また、利用者の最高年齢は101歳、最低年齢は20歳、平均年齢が概ね60歳と高齢化していることから、日々の健康管理に努めるとともに、理学療法士による身体機能評価や個別リハビリテーションを継続して行った。

グループホーム澄水（やまびこ・こだま）

グループホーム澄水では、令和3年度も知的障害者のうち施設入所利用者であって地域での生活が可能な人、又は居宅で家族と同居している者であって同居維持が困難な人に住居を提供し、地域内で安心・安全な日常生活が送れるよう身体及び精神の状況や生活環境全般について、きめ細かい相談・支援等を行った。また、利用者の住まいの場所として、食事、入浴等個々の生活リズムを最大限に尊重した支援に努めた。

平成13年3月に開設した「グループホームやまびこ」（旧「グループホーム21」、定員5名）と、平成26年3月に開設した「グループホームこだま」（定員7名）を合わせたグループホーム澄水は令和3年度で8年目を迎えた。やまびこは女性ホーム、こだまは男性ホームで、同性介助を基本としている。

## 2 澄水園全体(澄水園・グループホーム澄水)の利用・収支等の状況

### (1) 利用人員

	定員	令和3年度 事業計画	令和3年度 実績	令和3年度 達成率
施設入所支援	100名	100名	97.4名	97.4%
生活介護(通所)	100名	100名	98.5名	98.5%
短期入所	3名	3名	2.2名	73.3%
グループホーム やまびこ	5名	5名	4.9名	98.0%
グループホーム こだま	7名	7名	7名	100.0%

### (2) 収支状況

(単位：千円)

	令和2年度 決算額	令和3年度 当初予算額	令和3年度 補正後予算額	令和3年度 決算額	執行率
収入	825,968	801,045	802,868	795,863	99.1%
支出	779,967	770,637	774,982	774,889	99.9%
収支差額	46,001	30,408	27,886	20,974	-

### ※人件費の状況

(単位：千円)

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
人件費率	68.1%	68.0%	68.8%	64.5%	65.0%
金額	503,989	490,537	503,812	510,442	514,925
対前年度 増減額	-	▲ 13,452	13,275	6,630	4,483

【2-1】障害者支援施設 澄水園

1 人員配置

(単位：名)

職 種	配置基準 (国等)	配置基準 (加算分)	配置基準 小計(①)	基準超過分(②)	配置基準計(定員数) (①+②) A	令和4年3月31日現在人員配置状況					配置基準計(定員数) B との差 A
						正規職員(③)	非常勤職員	派遣職員(再掲)	非常勤職員 常勤換算(④)	実人員数 (③+④) B	
施設長	1.0		1.0		1.0	1.0				1.0	0.0
副施設長			0.0	1.0	1.0	1.0				1.0	0.0
事務職員			0.0	4.0	4.0	3.0	1.0		1.0	4.0	0.0
管理栄養士	1.0		1.0		1.0	1.0				1.0	0.0
生活支援員	45.8	23.0	68.8		68.8	55.5	22.0	2.6	12.5	68.0	▲ 0.8
看護師											
サービス 管理責任者	2.0		2.0		2.0	2.0				2.0	0.0
コーデイ ネーター		1.0	1.0		1.0	0.5				0.5	▲ 0.5
清掃他			0.0	2.8	2.8		5.0		2.8	2.8	0.0
合 計	49.8	24.0	73.8	7.8	81.6	64.0	28.0	2.6	16.3	80.3	▲ 1.3

※生活支援員の運用必要総数と実人員数との差は▲3.3。主な要因として、当初は派遣職員ゼロとしたが、生活支援員の正規職員に育児休業・休職者・短時間勤務者や退職者がいたため、新たな確保が難しく、変則勤務が可能な派遣職員を一時的に活用した。

※清掃他について障害者雇用を活用した清掃員・洗濯員として非常勤職員5名(常勤換算2.8名)を配置した。

## 2 利用・収支等の状況

### (1) 利用人員

	定員	令和3年度 事業計画	令和3年度 実績	令和3年度 達成率
施設入所支援	100名	100名	97.4名	97.4%
生活介護（通所）	100名	100名	98.5名	98.5%
短期入所	3名	3名	2.2名	73.3%

### (2) 収支状況

(単位:千円)

	令和2年度 決算額	令和3年度 当初予算額	令和3年度 補正後予算額	令和3年度 決算額	執行率
収入	775,079	738,018	755,818	748,983	99.1%
支出	742,889	715,669	737,920	737,174	99.9%
収支差額	32,190	22,349	17,898	11,809	-

### ※人件費の状況

(単位:千円)

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
人件費率	69.1%	70.1%	70.8%	63.1%	66.2%
金額	482,687	471,437	483,925	489,445	492,727
対前年度 増減額	-	▲ 11,250	12,488	5,520	3,282

## 3 収支の安定確保

### (1) 入所率

入所判定会議を通して待機者を常に把握し、計画的な入所が行えるよう努め、施設入所の利用率は 97.4%であった。地域からの利用ニーズが多い短期入所は定員 3 名に対し、新型コロナウイルス感染症防止のため受け入れを自粛した結果 2.2 名の利用となった。生活介護は新型コロナウイルス感染症防止のための利用者の外部への通所を自粛した結果 98.5%であった。

### (2) 経費節減・効率化対策

令和 3 年度も業者選定は、一般競争入札を実施し、経費の削減を図った。また、衛生関係備品の購入先を単価の安価な業者とするなど、経費縮減に努めた。

#### 4 利用者の安心・安全確保とサービスの向上

##### (1) 利用者中心のサービス提供と地域移行への支援

ア 利用者の健康管理のため、健康診断と南台病院医師の週3回の往診、理学療法士の月1回の往診、外部からの眼科医・脳外科医の月1回の往診、歯科衛生士による口腔ケアを月4回実施し、健康維持に努めた。また、新型コロナウイルスワクチンは南台病院等と連携し接種することができた。

イ 東京都地域移行促進コーディネート事業において、北多摩北部ブロックの13施設と連携しブロック会議2回、研修2回をオンラインで開催している。

東京都作成のグループホーム動画をピアサポート活動として担当施設職員や入所者へ配信した。また、地域生活移行体験室を利用して当施設や他事業所の地域移行に繋げることができている。

ウ 新型コロナウイルスのクラスター発生と再発防止策について、新型コロナウイルスの変異株（オミクロン株）が第6波として流行するなか、令和4年2月11日に3階の利用者1名が新型コロナウイルス陽性者となった。速やかに保健所と連絡を取り感染拡大防止策を実施した。具体的な感染拡大防止策は、陽性者の居室静養や陽性者が発生した3階のフロア内移動を制限するための間仕切り（ゾーニング）を設置し、他の職員や他のフロアへの感染拡大を防止するために対応する職員を限定し、フェイスシールドや防護服の着用などマニュアルに沿った対応を速やかに実施した。しかし、利用者は延べ15名罹患し、内2名は入院できたが他13名は施設内療養することとなり、職員は延べ12名罹患し、施設合計27名のクラスター発生となった。追加の感染拡大防止策を徹底することで、発症から約一か月半後の令和4年3月30日に全面解除となった。なお、令和4年には第7波が来ることも予測され、再発防止や感染拡大防止策を見直しするため、マニュアルの更新を速やかに実施することとしている。

エ 住環境等の改善について、居室に設置しているロッカーチェストの破損や老朽化により、102台の入れ替えを行い、環境改善を図った。また、令和4年度は、馬主協会の補助金を活用した福祉車両の入替を予定している。

##### (2) 日中活動の支援の充実

ア 園内作業は、箸の袋入れ作業やビーズ製作など利用者の希望と適性に応じた内容とし、園外作業では公園清掃や野菜作りと販売を実施した。

##### 【販売金額】

令和2年度 1,407千円（前年度より303千円減）※感染対策で縮小のため減

令和3年度 1,260千円（前年度より147千円減）※感染対策で縮小のため減

イ 余暇活動は、新型コロナウイルス対応のため、外部講師やボランティアにかわり、職員が中心となり体を動かす活動（ラジオ体操、散歩など日光浴等）、近隣へのドライブ、誕生日会、フラワーアレンジメント、創作活動等、多種多様な活動を行った。

### (3) 運営の透明性の確保

オンブズパーソンとして社会福祉士及び学識経験者による体制を確保したが、新型コロナウイルス感染症対応のため来園による相談活動は自粛した。また、毎月の月例保護者会は新型コロナウイルス感染症防止のため開催を自粛したが、保護者あての感染症対応の通知文や広報誌を通した施設の方針説明・情報提供、さらに保護者への電話やオンライン面会や間仕切り面会による情報共有や意見交換等を行い、施設運営の透明性確保に努めた。

また、福祉サービス第三者評価事業を受審し、訪問調査や家族・職員アンケートによる評価結果について施設全体で検討し改善実施することとした。

### (4) 職員の健康管理

産業医と衛生委員会が連携して職員の衛生管理に取り組み、感染症対策として日々の健康管理と衛生管理を徹底した。具体的には、1日に2回以上の環境消毒と換気、職員や来園者に健康状態の報告とマスク着用や手指消毒を徹底した。また、休業した職員の職場復帰相談、メンタル面でのサポートなど、働きやすい環境づくりに努めた。さらに、利用者と同様に新型コロナウイルスワクチンについては南台病院等と連携して接種することができた。

## 5 人材育成

### (1) 施設内研修

新型コロナウイルス感染症対応のため、対面の研修を中止し、施設職員（看護師、歯科衛生士等）による研修や外部講師によるオンライン研修を実施した。

研修名	参加人数
知的障害基礎研修	13名
食中毒予防研修	14名
口腔ケア研修	10名
ガウンテクニック研修	58名
感染症予防研修	11名
褥瘡予防研修	54名
虐待防止研修の伝達研修	27名
合 計	187名

### (2) 法人内部研修参加

研修内容	参加人数
新任研修・フォローアップ研修	1名
勤続2年目研修	2名
勤続4・5年目研修	6名
勤続10年目研修	5名
勤続25年目研修	3名
合 計	17名

(3) 外部研修会への参加

研修内容	参加人数
強度行動障害基礎研修	6名
サービス管理責任者更新研修	5名
サービス管理責任者基礎研修	1名
精神・神経に作用する薬を学ぶ	2名
てんかん基礎講座	2名
支援実践報告会	3名
第9回障害者支援施設部会 全国大会北海道大会	2名
知的発達障害部会「リーダー研修」	2名
知的発達障害部会 利用者支援研究会 学習会	1名
東社協「職場内研修担当者セミナー」	1名
合 計	25名

6 施設利用者に対する虐待防止と権利擁護

利用者への虐待や不適切な支援がないよう、障害者差別解消法や障害者虐待防止法を踏まえ、職務上の指針を明示し、虐待の芽チェックリストで職員の意識レベルの測定を行うなど、虐待防止と権利擁護の意識向上を図る取り組みを行った。



【2-2】グループホーム澄水（やまびこ・こだま）

1 人員配置

(単位：名)

職 種	配置基準 (国等)	配置基準 (加算分)	配置基準 小計(①)	基準超過分(②)	配置基準計(定員数) (①+②) A	令和4年3月31日現在人員配置状況					配置基準計(定員数) B との差 A
						正規職員(③)	非常勤職員	派遣職員(再掲)	非常勤職員 常勤換算(④)	実人員数(③+④) B	
施設長	(1.0)		(1.0)		(1.0)	(1.0)				(1.0)	0
サービス管理責任者 世話人兼務	1.0		1.0		1.0	0.1				0.1	▲ 0.9
生活支援員	2.6		2.6		2.6		10.0		3.4	3.4	0.8
世話人	2.4		2.4		2.4	0.9	4.0		2.0	2.9	0.5
合 計	6.0	0.0	6.0	0.0	6.0	1.0	14.0	0.0	5.4	6.4	0.4

※施設長は、澄水園施設長が兼務

2 利用・収支等の状況

(1) 利用人員

	定員	令和3年度 事業計画	令和3年度 実績	達成率
やまびこ	5名	5名	4.9名	98.0%
こだま	7名	7名	7名	100.0%
合計	12名	12名	11.9名	99.1%

(2) 収支状況

(単位：千円)

	令和2年度 決算額	令和3年度 当初予算額	令和3年度 補正後予算額	令和3年度 決算額	執行率
収 入	50,889	63,027	47,050	46,879	99.6%
支 出	37,078	54,968	37,062	37,714	101.8%
収支差額	13,811	8,059	9,988	9,165	-

※人件費の状況

(単位：千円)

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
人件費率	42.5%	36.4%	38.6%	41.3%	47.4%
金額	21,302	19,100	19,887	20,997	22,198
対前年度増減額	-	▲ 2,202	787	1,110	1,201

3 収支の安定確保

(1) 入所率

やまびこの利用者が1名退所したが、速やかに新規の入所調整をすすめ利用率は99.1%となった。

(2) 経費節約・効率化対策

安定した施設運営のため、引き続き事務経費等の削減に努めた。

4 利用者の安心・安全確保とサービスの向上

(1) 利用者の主体性及び意思決定に基づき関係機関の協力を得て、ヘルパーによる外出・余暇活動等への参加を充実させた。また、利用者の通院や健康管理の支援を行った。

(2) 令和4年3月22日に男性ユニットのこだま利用者3名が新型コロナウイルス陽性となった。こだまの利用者7名のうち3名が陽性となったため、陽性者のうち2名は入院療養することとなり、1名の陽性者と濃厚接触者となった他4名の利用者はグループホーム内での療養となった。また、対応した職員の陽性者は1名にとどめることができた。感染拡大防止策は保健所やバックアップ施設である澄水園と連携して対応した。今後は、再発防止策を検討することとしている。

5 人材育成

(1) 施設内研修

各種研修の報告書を毎月のスタッフ会議で伝達し、研修内容の共有に努めた。

(2) 外部研修会への参加

人権擁護・虐待防止についてのオンライン研修の受講を行った。

6 施設利用者に対する虐待防止と権利擁護

「障害者虐待防止法」「障害者差別解消法」の施行により、「障がい者」の権利について職員が再確認するとともに、福祉の専門職として業務上の指針を職員に周知した。また、職員の言葉づかいや声掛けについての「評価基準」を配布し、丁寧な言葉づかいをするよう徹底した。さらに、虐待防止については、「接し方チェックリスト」を利用して、虐待防止についての認識を強化した。

### 【3】救護施設 黎明寮

#### 1 施設の運営方針

黎明寮の運営方針である「心身の障害によって居宅生活が困難な困窮者を入所又は通所させ、安心・安全な生活環境を提供し、一人ひとりが願う生活や生き方を心豊かに過ごしていただけるように支援します。」に則して、安心して施設生活ができるよう職員一丸となって個別支援計画に基づいた入所者支援に努めるとともに、円滑な地域移行のための居宅生活訓練事業及び地域生活の定着・継続を支援するうえで効果的な通所訓練事業などを実施した。また、法人内在宅サービス事業所（訪問看護・訪問介護事業所）や地域の関係機関と連携し、地域の障がい者で生活に支障のある方々への相談支援や家庭訪問を通じ、医療・健康管理等の生活支援を行う等の地域貢献に努めた。

当施設は、平成3年度に全面改築を行ってから30年以上が経過し、空調設備、屋上防水、外壁、ボイラー等の経年劣化が著しく、また利便性の向上、感染症対策を含めた居室環境の整備が必要なことから、国及び東京都により令和3年度保護施設等整備費補助金の交付を受け大規模修繕工事を行った。

2 人員配置

(単位：名)

職 種	配置基準 (国等)	配置基準 (加算分)	配置基準 小計(①)	基準超過分 (②)	配置基準計 (定員数) (①+②) A	令和4年3月31日現在人員配置状況					配置基準計 (定員数) B との差 A
						正規職員 (③)	非常勤職員	派遣職員 (再掲)	非常勤職員 常勤換算 (④)	実人員数 (③+④) B	
施設長	1.0		1.0		1.0	1.0				1.0	0.0
事務職員	2.0		2.0	1.0	3.0	2.0	1.0		1.0	3.0	0.0
指導員	1.0	2.0	3.0		3.0	3.0				3.0	0.0
精神保健 福祉士		1.0	1.0		1.0	1.0				1.0	0.0
介護職員	21.0	11.0	32.0	1.0	33.0	26.0	6.0		4.9	30.9	▲ 2.1
看護師	1.0	1.0	2.0		2.0	2.0				2.0	0.0
介助員	1.0		1.0		1.0	1.0				1.0	0.0
栄養士	1.0		1.0		1.0	1.0				1.0	0.0
医師	0.1		0.1		0.1		1.0		0.1	0.1	0.0
清掃員			0.0		0.0		3.0		0.6	0.6	0.6
理学療法士		0.1	0.1		0.1					0.0	▲ 0.1
合 計	28.1	15.1	43.2	2.0	45.2	37.0	11.0	0.0	6.6	43.6	▲ 1.6

※ 医師は、措置費加算にて精神科の嘱託契約医師を配置

3 利用・収支等の状況

(1) 利用人員

	定 員	令和3年度 事業計画	令和3年度 実績	達成率
入 所	100名	102名	101.3名	99.3%
通 所	50名	50名	30.0名	60.0%

## (2) 収支状況

(単位：千円)

	令和2年度 決算額	令和3年度 当初予算額	令和3年度 補正後予算額	令和3年度 決算額	執行率
収 入	503,659	789,959	773,910	769,964	99.5%
前期末支払 資金取崩額	30,000	30,000	30,000	30,000	-
支 出	503,884	812,786	796,120	789,948	99.2%
収支差額	29,775	7,173	7,790	10,016	-

※社会福祉施設における措置費の取り扱いについては、厚労省関係局長連名通知「社会福祉法人が経営する社会福祉施設における運営費の運用及び指導について」において、法人本部の運営に対しては前期末支払い資金残高のうち一部を取り崩して充当できることとされている。当法人においても、毎期の決算期末に前期末支払い資金残高を取り崩して当期の法人本部への共通経費として充当する処理をしている。

## ※人件費の状況

(単位：千円)

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
人件費率	57.8%	58.1%	60.2%	57.7%	60.8%
金 額	287,821	288,762	298,639	290,585	298,426
対前年度 増減額	-	941	9,877	▲ 8,054	7,841

## 4 収支の安定確保

## (1) 稼働率の確保

入所率102%（定員100名 在籍目標数102名）が目標値であったが、実績数101名により年間を通して入所率は、101%となった。

要因としては、月の途中での死亡者や精神科病院への入院による退所と高齢者施設等への入所などが多かった中で、月初での入所とならなかったことがあげられる。

## (2) 経費節約・効率化対策

物品購入単価等や業務委託の見直し、及び施設設備管理・保守業務の業者を法人全体で一本化するなどして、業務効率化を行い経費節減等に努めた。また、令和3年度大規模修繕工事においては、一般競争入札を実施することで企業努力により大幅な契約差金が生じ経費節減に繋がった。

## 5 利用者の安心・安全確保とサービスの向上

### (1) 日中活動の充実

日中活動を充実する取り組みを平成 25 年度から始めて令和 3 年度で 9 年目となる。常勤職員 1 名、非常勤職員 3 名を日中活動の専任として配置するとともに、利用者が集い活動できる専用の日中活動室（名称：ぼーの）を設けて、新型コロナウイルス感染症防止対策を行いながら、喫茶・手芸工作・ゲーム・健康体操・美容教室、また運動不足解消のための運動を取り入れた企画や、プロジェクターでのミニシアター等の多様なレクリエーション活動を行った。

しかし、コロナ禍以前から実施されていた小平市社会福祉協議会等の紹介によるセラピードック、タンゴセラピー等や近隣の保育園児の来訪、また個人・グループのボランティアの協力による日中活動などは、引き続き新型コロナウイルス感染症防止から中止をした。

代わりに施設内での日中活動については、支援員による感染症防止対策を講じた小規模な娯楽・レクリエーション・運動等の新たな企画を考案し、活動日数の確保とメニューの充実に努め、月間予定表に掲示し活動への積極的な参加を呼びかけた。その結果、多くの利用者が日中活動に参加することができた（年間活動日数 262 日）。

令和 3 年度は令和 4 年 2 月から 3 月にかけて施設内で新型コロナウイルス感染者が発生し、日中活動を約 2 か月間中止したことで、延べ参加者数は前年度実績 17,811 名から 14,330 名に減少となったが、実施期間中の 1 日当たりの参加人数は、59.6 名から 59.4 名とボランティアの参加がない中で昨年と同等の効果をあげることができた。

作業活動については、昨年度と同様に新型コロナウイルスの影響で作業の受注が激減し、作業日数も減少した。製袋作業等の施設内作業の延べ参加者数は、前年度実績 5,976 名から 1,078 名に、また公園清掃等の施設外作業も利用者の感染防止のため参加制限や中止によって、延べ参加者数は 1,072 名から 40 名に減少となった。この結果、日中活動全体の延べ参加者数の合計は、前年度の 24,859 名から 15,448 名に減少となった。

### (2) サービス課・保健課の連携強化

サービス課・保健課がフロア会議などで連携し、利用者に対して健康管理、衛生管理の理解を深める目的で、利用者月例会などにおいて啓発活動を行った。

施設内においてはインフルエンザの発症はなかったが、感染性胃腸炎及び新型コロナウイルス感染症の発症があった。感染性胃腸炎については、令和 4 年 2 月初旬から中旬にかけて利用者に嘔吐等の症状が発症し、保健所指導のもと 4 階フロアにて服薬・静養し、悪化することなく軽快した。

また、新型コロナウイルス感染者については、令和 4 年 2 月中旬から 3 月中旬にかけて利用者、職員に発熱や咽頭痛などの症状が発症し集団感染となったが、

保健所の指導のもと4階の集会室・作業室を隔離場所に変更し、防護服を着用した支援員が専従で支援にあたった。また、職員については感染確認後10日間の自宅療養とした。感染状況は、ほとんどが発熱と咽頭痛程度で重症化に至る利用者はなく、保健所より指示された期間を隔離・療養し、3月末に収束となった。

感染症防止対策については、引き続き全国的な感染流行を受け、外部者の入寮を制限するとともに利用者の不要不急の外出の自粛要請など、法人感染症防止対策委員会における検討に基づき感染症予防対策を講じた。

また、マスクや手指消毒液などの衛生用品については、東京都の衛生管理体制確保等支援事業補助金を活用して積極的に購入した。

この他、新規入所者の健康診断及び年2回実施している利用者健康診断結果について、施設内診療医（精神科医：医療法人 社団碧水会 長谷川病院医師）から直接利用者に健康診断結果を説明し、健康管理上の助言を行うとともに、診断結果から管理栄養士による栄養相談を行い、支援員・看護師とともに協働してチーム支援を行った。

### （3）サービスの質の向上

#### ア 利用者ニーズに基づいたサービスの提供

##### （ア）居宅生活訓練事業

居宅生活訓練事業では、地域移行を希望する利用者のために近隣のアパートを借り上げてアパート生活の疑似体験を通じて、利用者の抱える生活課題を整理しつつ地域の社会資源と連携し、当該利用者の生活課題解消に向けた支援活動を行った。

定員は3名で3名が居宅生活訓練を継続中である。

（令和3年度地域移行者 1名）

地域生活に興味関心を持っている利用者に対しては、定期的に地域移行のための相談会を開催し地域生活に移行するに当たっての不安の解消に努めたほか、社会生活能力訓練（SST：ソーシャル・スキル・トレーニング）を実施した。

長期間実施する居宅生活訓練事業の前段階の体験宿泊（2～3日から1週間程度）については、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い令和3年8月から9月にかけて中止としたため、延日数は、前年度実績181日から106日に、延べ利用者数は、前年度実績の52名から32名と減少となった。

体験宿泊については、利用者ニーズが高く、感染防止対策をとる中で利用者の特性を見極めながら取り組みを行ったが、新型コロナウイルス感染症の影響でアパート利用の中止や制限を行ったことにより体験者が減少となった。

#### (イ) 保護施設通所事業

施設退所者及び地域の要支援者の地域生活支援としての保護施設通所事業（定員 50 名）の利用実人員数は、30 名であった。相談支援・訪問相談等の実績は、年間 2,745 件、月平均 228.8 件（前年度 年間 2,650 件、月平均 220.8 件）で増加となった。

コロナ禍ということもあり今までの日常が非日常になったことから、新しい生活様式に慣れることや不安解消のために、昨年度よりも訪問回数を増やし個人のニーズに即した支援を行った。

#### (ウ) 一時入所事業

一時入所事業の年間利用実人員数は、前年度実績の 9 名から 3 名に、利用延日数が 51 日から 20 日となった。

減少となった主な理由は、長期化した新型コロナウイルス感染症予防対策から対象者を受け入れることが困難であったことと、精神科病院からの体験利用及び施設訓練者並びに日常生活が困難になった者の利用の申込が少なかったことが挙げられる。

令和 3 年度実績

（単位：千円）

事業名	令和 3 年度収入	令和 3 年度支出	収支差額
居宅訓練事業	7,278	10,583	▲3,305
通所事業	51,339	28,389	22,950

#### イ 地域貢献

当法人の在宅サービス総合センターの訪問看護・介護事業所、小平市地域包括支援センターけやきの郷等から在宅生活において何らかの支援を要する人からの相談を受け、当施設の日常生活機能（日中活動のレク・作業、入浴・食事など）を提供するなど法人サービス機能を協働して提供した。

#### ウ 第三者評価事業の受審

今年度は、評価機関「株式会社ケアシステムズ」に委託し、利用者聞き取り調査、職員・リーダー層自己評価票の分析シート、ヒアリング訪問調査等を行い、受審結果の振り返りを受け、評価機関を通じて東京都サービス評価推進機構に結果報告を行い、「とうきょう福祉ナビゲーション」に公開されている。

受審結果における全体の評価の特に良い点としては、

- ①事業所業務の各種マニュアルが整備されており定期的にマニュアルの改訂を行い、また利用者や職員からの声、「私たちはこう考えました！」という事例集を通して業務の標準化を図っている。
- ②支援がより利用者主体となるように月 1 回の利用者とのグループ懇談会



など利用者が気軽に発言できる機会を多く持ち、支援がより利用者主体となるように努めている。

- ③職員間のコミュニケーションは適切に図られ、組織力は高く、良い組織風土が醸成されている。

更なる改善が望まれる点としては、以下の指摘があった。

- ①スマートホン対応など利用希望者のニーズを汲んだホームページの刷新を検討していく。
- ②コロナ禍によって外出制限が伴う中、利用者が自ら選んで買い物をする機会が減少していることを踏まえ、日常的な外出支援の方向性を検討していく。
- ③コロナ禍で利用者の行動制限をせざるを得ない状況で、状況を理解できない利用者が精神的に不安定になりストレスを抱える状況となっている。集団生活という環境に応じたフローチャート作成など独自の業務継続計画策定に取り組んでいく。

#### (4) 環境整備

令和3年度は、国及び東京都からの保護施設等整備費補助金を受けて、施設の大規模修繕を行った。当施設は、平成3年度改築後30年以上が経過しており、耐用年数がすでに超過している修繕箇所や高額機器の交換が必要となっていた。主な修繕内容としては、空調設備、給排水管、屋上防水、外壁塗装、利用者用トイレ・洗面所改修、職員トイレ増設、地域（通所）利用者用談話室の新設、1階居室の壁紙等の整備、食堂・階段床材張替、自家用発電気部品交換、高圧ケーブル高圧機類更新工事などを行った。

#### ※令和3年度 保護施設等整備費補助事業（大規模修繕）の内容

No.	項目	修繕内容
1	屋上・屋根防水	腐食等の補修と防水工事
2	外壁	外壁塗装と防水補修工事
3	1.2階医務室と居室の再編	2階医務室を1階へ移動し静養室の整備。1階居室を2階へ移動
4	利用者及び職員トイレ改修	全面改修リニューアル
5	全館階段とその側壁の改修	全面改修と高齢化対策（手すりの設置）
6	利用者全居室ドアの更新	ドアの軽量化改修
7	1階（食堂・居室・玄関）全面改修	補修による美化及び高齢化対策仕様
8	全館 空調関連設備	新たな電気とガス併用エネルギー仕様による空調全館改修
9	地下 天井水漏れの修繕	天井からの水漏れ修繕
10	ボイラー機器の更新	経年劣化からの更新
11	貯水槽に蛇口の設置	緊急災害用の給水設備の整備

## 6 人材育成

### (1) 法人内研修会への参加状況

外部講師を招いた法人研修や施設内研修会等は、新型コロナウイルス感染症防止対策の必要から対面での実施は見送り、規模を縮小しての通信や動画視聴での研修を行った。

月	研修名	参加人数	研修方法
5月	実践研究の在り方を学ぶ	2名	通信
4月～5月	新任研修	2名	通信
4月～9月	管理職研修	3名	通信
6月～7月	労務管理	2名	通信
9月	勤続4年目・5年目研修	1名	通信
10月	人権研修（利用者同士の交際について）	18名	動画視聴
11月	グリーンケア研修	1名	集合

### (2) 外部研修会への参加状況

毎年参加している全社協や東社協主催の救護部会の各種研修は、オンライン研修として参加した。

月	研修名	参加人数	研修方法
6月	令和3年度栄養管理講習会	1名	オンライン 研修
	アウトリーチ研修	1名	
	精神保健福祉基礎研修 1	2名	
	精神保健福祉基礎研修 2	2名	
7月	大人の発達障害(基本的な支援の考え方)	1名	
	地域とのつながりが希薄になっている方への支援を考える	1名	
8月	令和3年度栄養管理講習会	1名	
	相談・支援力UP研修	1名	
9月	第54回関東地区救護施設研究会	3名	
	福祉に求められるリーダーシップの在り方	1名	
11月	ハームリダクションについて	2名	
12月	アウトリーチ研修	1名	
	大人の発達障害治療プログラム	3名	
	障害福祉サービス事業所職員研修	2名	
	福祉職員のためのスタートアップ研修	1名	
	虐待防止研修	1名	
1月	ギャンブル依存について	1名	
	部下・後輩を育てるコーチング研修	2名	
2月	後輩を育てるコーチング	1名	

- (3) 職員の国家資格取得者 介護福祉士 1名  
社会福祉士 2名

## 7 施設利用者に対する虐待防止と権利擁護

### (1) オンブズパーソンの活用

利用者の権利擁護のため利用者の意向等を代弁する環境づくりとして、弁護士、社会福祉士の2名のオンブズパーソンを選任している。相談件数は45件（前年度84件）であった。

利用者が積極的に相談等できるよう来寮予定日とオンブズパーソンの写真を掲示し、利用者が相談者を選択できるよう配慮するとともに、相談希望者が専用ポストに本人写真付き相談カードを投函すれば、オンブズパーソンが訪室し相談できる環境を整えている。

### (2) 保護者、利用者及び職員からの苦情

法人本部に設置されている「事業適正化委員会」に報告すべき事例が生じた場合は速やかに報告し、その指導に沿って必要な措置を取る仕組みが構築されている。

### (3) 黎明寮における障害者虐待防止・権利擁護について

平成30年度に人権擁護委員会を設け、人権擁護標語を2か月おきに作成し職員への注意喚起に努めた他、施設内研修委員会と連携し「私たちはこう考えましたパートⅡ」を作成し、日常における利用者との接し方等を考察して、その望ましいあり方を周知した。また障害者虐待防止・権利擁護チェックリストにより、個々の支援を振返る一助とした。令和3年度は、全社協や東社協等が主催する人権研修への参加が新型コロナウイルス感染症予防から中止となったため、多摩総合精神保健福祉センター主催のWEBによる虐待防止研修への参加や、施設内で都内精神病院のコロナ禍における入院患者対応のTV番組の視聴を行い人権擁護への理解を深めた。

8 利用者等の状況

(1) 入退所状況

(単位：名)

月 区分	利用状況 (1日現在)						入所退所状況					
	実人員			延人員 (日数)			入所			退所		
	男	女	計	男	女	計	男	女	合計	男	女	合計
令和3年 4月	59	43	102	1,770	1,290	3,060						
5月	59	43	102	1,801	1,333	3,134				1		1
6月	58	43	101	1,748	1,290	3,038	1		1			
7月	58	42	100	1,800	1,305	3,105	1	2	3	1	2	3
8月	59	43	102	1,802	1,333	3,135				1		1
9月	59	43	102	1,745	1,290	3,035	2		2	1		1
10月	59	43	102	1,833	1,322	3,155	1	1	2		2	2
11月	59	42	101	1,755	1,244	2,999	1	1	2	2	1	3
12月	59	42	101	1,829	1,311	3,140		1	1			
令和4年 1月	59	43	102	1,803	1,333	3,136				1		1
2月	58	43	101	1,624	1,196	2,820	1		1	1	1	2
3月	57	42	99	1,770	1,302	3,072	1		1	1		1
計	703	512	1,215	21,280	15,549	36,829	8	5	13	9	6	15
月平均	58.58	42.67	101.3	1773.33	1295.75	3069.08	-	-	-	-	-	-

※入退所後の内訳

入所元		退所先	
精神科病院	11名	精神科病院	6名
更生施設	0名	高齢者 (有料施設)	1名
在宅	0名	老人保健施設	1名
グループホーム	1名	地域移行	1名
養護老人ホーム	1名	一般病院	1名
		その他施設	1名
		死亡	4名
合計	13名	合計	15名

## (2) 年齢別構成

## ア 入所利用者

(単位：名)

区分 年齢	令和2年3月31日			令和3年3月31日			令和4年3月31日		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
30歳未満	0	0	0	0	0	0	0	0	0
30歳以上～40歳未満	1	0	1	1	1	2	0	1	1
40歳以上～50歳未満	12	5	17	9	4	13	11	3	14
50歳以上～60歳未満	13	12	25	11	11	22	10	11	21
60歳以上～65歳未満	10	8	18	11	8	19	11	9	20
65歳以上～70歳未満	9	6	15	9	6	15	9	7	16
70歳以上	14	13	27	18	12	30	16	12	28
計	59	44	103	59	42	101	57	43	100
平均年齢	60歳 4か月	62歳 8か月	61歳 4か月	61歳 6か月	63歳 4か月	62歳 4か月	62歳 6か月	63歳 6か月	62歳 6か月
最高年齢	85歳	87歳		86歳	88歳		79歳	84歳	
最小年齢	36歳	40歳		37歳	30歳		40歳	31歳	

## イ 支援をしている地域生活者

(単位：名)

区分 年齢	令和2年3月31日			令和3年3月31日			令和4年3月31日		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
30歳未満	0	1	1	0	0	0	0	0	0
30歳以上～40歳未満	0	0	0	0	0	0	0	0	0
40歳以上～50歳未満	7	4	11	3	2	5	2	2	4
50歳以上～60歳未満	4	2	6	6	3	9	7	2	9
60歳以上～65歳未満	3	3	6	2	3	5	2	2	4
65歳以上～70歳未満	5	1	6	5	1	6	3	0	3
70歳以上	3	5	8	4	5	9	6	4	10
計	22	16	38	20	14	34	20	10	30
平均年齢	58歳 3か月	60歳 3か月	54歳 4か月	59歳 7か月	59歳 9か月	59歳 8か月	58歳 9か月	59歳 3か月	58歳 10か月
最高年齢	72歳	83歳	-	73歳	84歳		74歳	85歳	
最小年齢	46歳	27歳	-	47歳	48歳		48歳	46歳	

(3) 在籍年数

ア 入所利用者

(単位：名)

区分 年数	令和2年3月31日			令和3年3月31日			令和4年3月31日		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1年未満	9	6	15	6	3	9	8	4	12
1年以上～5年未満	27	15	42	27	15	42	24	14	38
5年以上～10年未満	8	10	18	11	12	23	14	10	24
10年以上～15年未満	4	5	9	4	6	10	5	8	13
15年以上～20年未満	5	1	6	5	0	5	1	0	1
20年以上～30年未満	4	4	8	4	5	9	4	5	9
30年以上	2	3	5	2	2	4	2	1	3
計	59	44	103	59	43	102	58	42	100
平均在籍年数	7年 7か月	9年 4か月	8年 4か月	8年	9年 10か月	8年 10か月	8年	9年 10か月	8年 10か月

(4) オンブズパーソンの活用

※オンブズパーソン (2名：弁護士・社会福祉士)

①実相談者数 利用者 45名

②相談件数と相談内容

NO	相談内容	相談件数
1	黎明寮での生活や自身の健康 (医療・感染症不安等)	25
2	入所利用者に関する不安や苦情	3
3	退所や今後の生活について	1
4	小遣いその他の金銭管理について	1
5	家族などとの関係について	3
6	職員の言動や対応について	6
7	職員体制について	0
8	住環境の不満・希望について	1
9	成年後見人について	2
10	その他 (自己の報告と諸処の雑談等)	3
合計		45

## 【4】救護施設 あかつき

### 1 施設の運営方針

かつて精神病院の中には治療効果によって問題行動が無くなり、精神疾患寛解者が長きにわたって入院されている事例があり、これが大きな人権問題になった。これらの精神寛解者については、退院しても家族が引き取りを渋るケースが多く、結果的に救護施設において対応することになり、我が国の先駆的な取り組みをする救護施設として、あかつきが創設された。

あかつきでは、昭和34年の開設当初より医療機関から退院する精神疾患寛解者を数多く受け入れる（99%）とともに、地域生活への移行を積極的に行ってきた。

令和3年度も個別支援計画に沿った利用者支援を軸に、地域生活移行準備のため施設内に設置した地域生活体験室での生活体験を経て、近隣アパートでの居宅生活訓練事業を実施し、地域移行の促進を図った。

地域で暮らす退所者には、通所によって食事や作業等日中活動を提供・支援する事業、施設職員が自宅へ訪問し、相談や通院同行等の支援を行う訪問事業を実施した。多くの利用者は様々な生活のしづらさを抱えており、生活意欲の向上と権利擁護を重点にした支援に努めた。

また、改築に向けて社会福祉施設等施設整備費（保護施設等）補助協議書保護施設整備事業計画を令和3年6月に東京都へ提出し協議を進めており、令和3年12月に大規模開発に伴う土地利用構想を小平市に提出し、令和4年1月に住民説明会を開催するなど、事業採択の動向を見据えながら、令和5年度の竣工を目指した施設運用並びに職員配置体制の円滑な準備を進めた。

## 2 人員配置

(単位：名)

職 種	配置基準 (国等)	配置基準 (加算分)	配置基準 小計(①)	基準超過分(②)	配置基準計(定員数) (①+②) A	令和4年3月31日現在人員配置状況					配置基準計(定員数) との差 B-A
						正規職員(③)	非常勤職員	派遣職員(再掲)	非常勤職員 常勤換算(④)	実人員数 (③+④) B	
施設長	1.0		1.0		1.0	1.0				1.0	0.0
事務職員	2.0		2.0	2.0	4.0	4.0				4.0	0.0
指導員	2.0	2.0	4.0		4.0	4.0				4.0	0.0
精神保健 福祉士		2.0	2.0		2.0	2.0				2.0	0.0
介護職員	37.0	2.8	39.8		39.8	32.0	5.0		3.4	35.4	▲ 4.4
看護職員	3.0		3.0		3.0	3.0				3.0	0.0
介助員	1.0		1.0		1.0	1.0				1.0	0.0
栄養士	1.0		1.0		1.0	1.0				1.0	0.0
医師	0.2		0.2		0.2		3.0		0.2	0.2	0.0
臨床心理士			0.0	0.4	0.4		1.0		0.4	0.4	0.0
清掃員			0.0		0.0		3.0		1.6	1.6	1.6
合 計	47.2	6.8	54.0	2.4	56.4	48.0	12.0	0.0	5.6	53.6	▲ 2.8

※人員配置は当初計画どおりとなっている。

※運用上必要総数外として、障害者雇用を活用した清掃員として非常勤職員3名(常勤換算1.6名)を配置している。



### 3 利用・収支等の状況

#### (1) 利用人員

	定員	令和3年度 事業計画	令和3年度 事業実績	達成率
入所	195名	199名	196.5名	98.7%
通所	40名	33名	27.2名	82.4%
訪問	30名	33名	28.2名	85.5%
ショート	5名	-	-	-
居宅訓練	5名	5名	5名	100.0%

#### (2) 収支状況

(単位：千円)

	令和2年度 決算額	令和3年度 当初予算額	令和3年度 補正後予算額	令和3年度 決算額	執行率
収入	778,575	778,989	767,946	768,542	100.1%
前期末支払 資金取崩額	35,000	35,000	35,000	35,000	-
支出	769,815	787,557	763,285	759,351	99.5%
収支差額	43,760	26,432	39,661	44,191	-

#### ※人件費の状況

(単位：千円)

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
人件費率	51.2%	52.3%	53.4%	53.5%	53.8%
金額	403,412	395,843	417,719	413,303	408,964
対前年度 増減額	▲9,370	▲7,570	21,876	▲4,416	▲4,339

#### (3) 課題と改善策

入所者の平均年齢は61歳、最高齢者は88歳と高齢化が進行している。要介護認定者は8名おり、施設内での処遇が困難となりつつある。また、施設内における転倒事故の危険性が高まっており、高齢化への対応が急務であることから、要介護認定を受けた入所者が、十分な支援が受けられるよう、福祉事務所の協力のもと、高齢者施設への移行支援を引続き実施していく。

#### 4 収支の安定確保

##### (1) 稼働率や加算取得の見込み

令和3年度の入所稼働率は101%で、居宅生活訓練事業は定員5名の確保、保護施設通所事業は3名の新規利用者増の目標を達成した。

##### (2) 経費の削減など支出の合理化について

施設管理・運営事務費等経常的・定型的な経費についてさらなる削減を図っている。また、300千円以上の物品購入等については複数の見積りを徴し、1,000千円以上の購入等については、従来通り一般競争入札を行うとともに、食事サービス、リース物件や建物保守・管理を法人で一括契約するなど支出の適正化に努めた。

#### 5 利用者の安心・安全確保とサービスの向上

##### (1) 第三者評価事業の受審

毎年度受審している福祉サービス第三者評価事業を令和3年度も実施した。利用者への聞き取り調査を含め、サービスの質の向上への取り組みや権利擁護、安全・安心確保への対応について、外部機関による評価を受けることにより、評価結果の改善すべき点を計画的に取り組み、施設全体で見直しを図った。

##### (2) 日中活動の充実

日中活動は、やりがいや生きがいを大切にしながら、多くの利用者が参加できるように計画的に実施した。就労訓練としての「中間的就労」認定を目指して、作業活動に力を入れて取り組んだ。また、楽しく手足や全身を動かす運動を行い、利用者の介護予防に繋がる活動の充実を図った。

##### (3) 入所利用者のニーズに基づいたサービスの提供

施設利用者の地域生活への移行を継続して支援した。居宅生活訓練事業では、近隣アパート5室（定員5名）での最長2年間の日常生活訓練（食事、洗濯、掃除、金銭・服薬管理等）及び社会生活訓練（公共交通機関の利用、通院、行政機関への申請、買物、対人関係調整等）を通じた地域生活移行への事前体験を行い、単身で自立生活ができるよう訓練を実施した。

また、地域で暮らす退所者に対しては、通所事業や一時入所事業を実施し、地域の関係機関と連携して生活の安定と定着のための支援を行った。

##### (4) 地域連携と地域貢献

近隣地域に在住する潜在的な生活困窮者への支援を行った。地域の関係機関・団体及び法人内の在宅部門（地域包括支援センター、訪問看護・介護事業所等）と情報を共有して生活支援や同行支援を実施するなど、地域福祉への貢献に努めた。

##### (5) 災害時対策の取り組み

総合的な災害時の対策は、施設や法人の防災管理委員会において検討したほか、防災委員が中心となり自然災害発生時の事業継続計画を策定した。また、避難訓練等の総合防災訓練を毎年度行っているが、新型コロナウイルスの影響もあり令和3年度は実施に至らなかった。施設内では、新型コロナウイルス感染症が拡大

した令和4年2月と3月を除き、令和3年度は毎月1回、実際に災害を想定した実地訓練等を実施した。

#### (6) 住環境等の整備

建物及び設備の設置から42年が経過し、利用者の安全・安心を担保するための計画的な住環境の整備を図っており、令和3年度は、食器洗浄機の入れ替えについて改築計画と照らし合わせて、引き続き検討を行った。

#### (7) 感染症対策

新型コロナウイルス感染症を含む感染症防止のための取り組みを利用者の生活を継続する観点から、より一層推進した。具体的には職員同士の距離の確保、マスクの着用、手洗いなどの手指衛生、事業場の換気励行、複数人が触れる箇所の消毒、発熱等の症状が見られる職員の出勤自粛、職員の移動を減らすためのオンライン会議の活用等の基本的対策を行った。これら十分な感染症対策を前提として、利用者に対して必要な支援を継続的に提供した。

さらに、新型コロナワクチン接種について、職員は令和3年7月に、利用者は令和3年8月に行い、救護施設においては、令和3年6月から東京都の委託によるPCR検査を毎週1回実施しており、施設における集団感染防止に努めた。

しかしながら、このような努力にもかかわらず、新型コロナウイルス感染症拡大の波は救護施設あかつきを直撃し、令和4年3月7日現在で、入所利用者に43名の新型コロナウイルス感染者及び24名の濃厚接触者が発生したが、法人感染症防止対策委員会や保健所との連携及び業務継続計画の徹底により、令和3年3月22日に隔離期間が経過して全員解除となり、感染者は重症に至らずに収束することが出来た。

- 6 社会福祉法や介護報酬（措置費・診療報酬）改正などによる事業への影響と対応策  
社会保障審議会での部会検討では、保護施設のあり方検討が始まっており、単独で生活が困難な人への日常生活居住支援の実施を含めた生活保護制度見直しの進捗状況の把握に努めた。

## 7 人材育成

### (1) 職員面接と事前調査の実施

利用者への心配り、権利擁護のチェック及び業務の振り返りなど、毎年度実施している職員との面接を計画的に実施することにより、業務の課題や次年度の研修希望等の聞き取りを行い、課題抽出と人材育成に取り組んだ。

### (2) 国家資格等取得の奨励

福祉職に対する人権意識や専門的知識と技術がこれまで以上に求められており、勤務等に配慮しつつ、国家資格等取得奨励金制度等を活用し、令和3年度においては、精神保健福祉士2名、介護支援専門員1名の資格取得があった。

### (3) 研修計画

全国救護施設協議会、関東地区救護施設協議会、東京都社会福祉協議会等の外部研修への参加、法人研修での階層別及び専門研修への参加、施設内サービス研究会で実施する研修等を通して、救護施設の課題を検討するとともに職員の資質向上を目指しているが、令和3年度は令和2年度同様に、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う各種研修の中止が相次いだことから、オンライン研修や動画研修での参加を増やす等、引き続き職員の資質向上に繋がる取り組みを図った。

## 8 施設利用者に対する虐待防止と権利擁護

### (1) サービスの適正化

利用者、家族、職員等からの苦情等については、苦情等解決規程に基づき速やかに解決を図った。また、権利擁護は、サービス提供の基本であることを組織全体に周知徹底し、コンプライアンスに基づきサービスの適正化を図った。

### (2) オンブズパーソンの活用

施設オンブズパーソンとして令和3年度も3名（弁護士、大学教授、東京地方検察庁社会復帰支援室・社会福祉士）に、利用者相談や利用者サービス適正化への助言を依頼した。

### (3) 利用者虐待の防止

「障害者の虐待防止と対応と手引き」をもとに、利用者の人権擁護、虐待防止を啓発する研修に職員を参加させるとともに、令和3年度も虐待の芽チェックリスト（東京都福祉保健財団高齢者権利擁護支援センター作成）によるチェックを実施して、虐待防止に対する意識レベルの測定、職員相互の意識向上に努めた。

## 9 その他施設における新たな取り組み（改築等）

### (1) 全面改築の推進

ア 老朽化した建物の設備整備とともに、築42年を経過した建物の改築が課題となっている。地域支援の拠点となるべき建物の構想を具現化するため、令和4年度の着工に向けて、社会福祉施設等施設整備費（保護施設等）補助協議書を作成し、令和3年6月に東京都への申請を行った。また、令和3年12月に大規模開発に伴う土地利用構想を小平市に提出し、令和4年1月に住民説明会を開催するなど、施設整備運用の円滑な取り組みを進めた。

イ 改築工事の着工に向けて、改築工事期間中の現入所者の処遇について、利用者の安全と利用者サービスが維持できる環境を確保するための検討を、継続して行った。

## 【5】特別養護老人ホーム やすらぎの園

### 1 施設の運営方針

やすらぎの園は、入所・通所事業を通じて、介護を要する高齢者の尊厳を守り、安全に配慮しながら、身体残存機能を活かした日常生活動作の向上を目指し、いきいきと楽しく生活が送れるよう、ご家族の同意を得ながら入所者、通所利用者の生活支援を行った。

地域密着型ユニット（10床×2ユニット）は、少人数ケアの特徴を活かして、四季折々の行事催事等、在宅の延長として家庭的なサービスの提供に努めた。

一般通所介護事業「デイサービスやすらぎ」は、地域高齢者の在宅生活の維持と充実した生活支援を行うため、関連介護事業所とサービス担当者会議を通して情報交換を密にし、利用者の希望を取り入れたサービスの向上に努めた。

なお、新型コロナウイルス感染症が蔓延、未だ終息がみられない中、やすらぎの園の利用者が安全に安心して利用できるように感染対策を徹底した。

2 人員配置

(単位：名)

職 種	配置基準 (国等)	配置基準 (加算分)	配置基準 小計(①)	基準超過分(②)	配置基準計(定員数) (①+②) A	令和4年3月31日現在人員配置状況					配置基準計(定員数)との差 B-A	
						正規職員(③)	非常勤職員	派遣職員(再掲)	非常勤職員常勤換算(④)	実人員数(③+④) B		
施設長	1.0		1.0		1.0	1.0				1.0	0.0	
医師	0.2		0.2		0.2		1.0		0.2	0.2	0.0	
副施設長										0.0	0.0	
栄養士	1.0		1.0		1.0	1.0				1.0	0.0	
事務員				4.0	4.0	3.0	3.0		1.3	4.3	0.3	
相談員	2.0		2.0		2.0	2.0				2.0	0.0	
計	4.2	0.0	4.2	4.0	8.2	7.0	4.0	0.0	1.5	8.5	0.3	
従来型	看護師	4.5		4.5	4.5	4.0	1.0		0.7	4.7	0.2	
	PT/OT	1.2		1.2	1.2	1.0	1.0		0.2	1.2	0.0	
	介護職員	37.0	2.0	39.0	2.0	41.0	32.0	12.0		7.2	▲ 1.8	
	ケアマネ	2.0		2.0	2.0	2.0				2.0	0.0	
	計	44.7	2.0	46.7	2.0	48.7	39.0	14.0	0.0	8.1	▲ 1.6	
ユニット型	看護師	1.0		1.0	1.0	1.0				1.0	0.0	
	PT/OT	0.2		0.2	0.2					0.0	▲ 0.2	
	介護職員	7.0		7.0	1.0	8.0	6.0	8.0		2.9	0.9	
	ケアマネ	1.0		1.0	1.0	1.0				1.0	0.0	
	計	9.2	0.0	9.2	1.0	10.2	8.0	8.0	0.0	2.9	10.9	0.7
デイサービス	相談員	1.0		1.0	1.0	1.0				1.0	0.0	
	看護師	1.0		1.0	1.0		2.0		0.8	0.8	▲ 0.2	
	介護職員	4.0		4.0	4.0	2.0	15.0		5.8	7.8	3.8	
	運転手				1.5	1.5		3.0		1.5	1.5	0.0
	PT/OT	0.2		0.2	0.2	0.2		1.0		0.1	0.1	▲ 0.1
	計	6.2	0.0	6.2	1.5	7.7	3.0	21.0	0.0	8.2	11.2	3.5
合計	64.3	2.0	66.3	8.5	74.8	57.0	47.0	0.0	20.7	77.7	2.9	

### 3 利用・収支等の状況

#### (1) 利用人員

	定員	令和3年度 事業計画	令和3年度 実績	達成率
入所	116名	110名	111.5名	101.4%
ユニット型	20名	20名	19.2名	96.0%
短期入所	4名	4名	3.8名	95.0%
通所	30名	28名	22.0名	78.6%

#### (2) 収支状況

(単位：千円)

	令和2年度 決算額	令和3年度 当初予算額	令和3年度 補正後予算額	令和3年度 決算額	執行率
収入	703,055	726,806	766,378	759,934	99.2%
支出	703,053	721,299	753,758	753,068	99.9%
収支差額	2	5,507	12,620	6,866	-

#### ※人件費の状況

(単位：千円)

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
人件費率	56.3%	61.4%	67.4%	64.1%	63.8%
金額	392,200	420,202	453,592	440,604	443,260
対前年度 増減額	-	28,002	33,390	▲ 12,980	2,656

### 4 収支の安定確保

#### (1) 稼働率向上や加算取得の見込み

##### ア 稼働率の向上

法人内外の医療機関、介護保険事業所等と連携し、新規入所待機者を確保するための営業活動に力を入れ、入所調整会議の充実を図り、目標とする達成率が101.4%となり、44名の新規入所者を確保することができた。しかし、令和3年度の入院者は73名（令和2年度67名）であり、毎年度増加傾向にある入院者を減らすことはできなかったが、医療機関との積極的な情報共有と連携により、空床期間の短縮を行い稼働率向上に努めることができた。

短期入所は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため個室対応を行い、稼働率 96%と目標を達成することができなかったが、令和 4 年度は多床室でも対応できるよう、利用前のワクチン接種状況を確認、健康チェックをさらに強化し稼働率向上に繋げていく。

令和 4 年度も、例年同様にベッドコントロールが課題となり空床期間の短縮に努めるとともに、入所待機者の確保を行うため、指定居宅介護支援事業所や病院及び介護老人保健施設、事業所等との連携を密に図り、待機者の確保に繋げていきたい。また、今後は看取り介護を希望される利用者及び家族がさらに増加することが予測されるため、様々な身体機能、医療的ニーズに対応できるよう介護サービスの質の向上に努め、一人ひとりの症状に合わせた適切なサービスの提供を行っていく。

令和 3 年度入所・退所及び入院状況 (単位:名)

入所 (令和 2 年度)	44 (41)	退所 (令和 2 年度)	46 (40)	入院 (令和 2 年度)	73 (67)
(入所経路)		(退所経路)		(入院先)	
・介護老人保健施設	18	・南台病院長期入院	17	・南台病院	69
・有料老人ホーム	2	・入院後の死亡退所	14	・東大和病院	2
・病院	13	・施設で看取り介護	12	・一橋病院	1
・在宅	10	・在宅	2	・その他	1
・その他	1	・介護老人保健施設	1		

## イ 加算取得

令和 3 年度介護報酬改定に伴う新設の加算については、加算要件や費用対効果を考慮し取り組んだ。今回の改定で、栄養マネジメント加算が基本報酬に含まれたことで、新たに栄養マネジメント強化加算が創設されたが、人員配置においての要件が厳しく取得困難な状況だった。

外泊時加算に加えて令和 3 年 1 月より、入院時における居室料について見直しを行い、外泊居住費としての収益に繋ぐことができた。

令和 4 年度は、積極的な加算取得に向けて科学的介護情報システム (LIFE) の活用、個別機能訓練加算Ⅱ及び褥瘡マネジメント加算Ⅰ、安全対策強化加算を取得し、厚生労働省へのデータ提出とフィードバックの活用により PDCA サイクルを推進しケアの質の向上に努めるとともに収支の安定確保に繋げていく。

## (2) 経費の削減など支出の合理化について

今年度より排泄ケア委員会を新たに設け、前年度に引き続き適正なオムツの使用状況について検証しオムツ業者による学習会を実施した。各フロアでは業務の見直しを図り、個別ケアに生かせるよう実践してきたが、使用量が令和 2 年度と



比較してユニットは減少したが、従来型は増加という結果に至った。

次年度も排泄ケア委員会を中心に適正なオムツの使用を行い、入所者が快適に安心して生活していただけるよう、一人ひとりに適したよりよい排泄ケア、尊厳を損なわない介護支援に日々取り組んでいく。

また、水道光熱費が値上げ等で大きく増加しており、今後の使用方法やコストを注視しながら適正な使用に努めていく。

### (3) 課題と改善策

#### ア 特別養護老人ホームの機能向上のためのシステムづくりの推進

(ア) デイサービスの稼働率アップに向けて令和3年8月より、生活リハビリを導入するため理学療法士監修の歩行訓練を実施した。また、月1回「喫茶やすらぎ」を開催し、利用者セレクトおやつを提供した。さらに、月に1回理美容サービスを実施するなど、新たなサービスを導入し、利用者の獲得とサービスの強化に努めた。令和4年度は、「生活ニーズ対応型デイサービス」をキャッチコピーとして、セレクトおやつや理美容を継続し、①お風呂の充実（バスポプリーやヒノキ風呂等）②新レクリエーションの導入（陶芸やガーデニング等）③延長利用者や半日利用者の受け入れ④新加算取得（科学的介護推進体制加算、個別機能訓練加算等）を実施していく。

(イ) 各専門職を中心に利用者の意思を尊重した個別性のある計画を検討。自立を促しながら支援し、身体残存能力を活かしたケアを実施していく。

(ウ) 業務上の課題を解決するため様々な取り組みを行う中で、介護職員が抱えている腰痛予防のために、排泄ケアや入浴介助時に効果が高いといわれている介護用アシストスーツの導入を検討し、10月にデモ機を実際に使用したが、コストが高いことや装着に時間がかかること、さらに職員のサイズに合うものがない等の課題があり導入できていない。今後は、介護に適したアシストスーツ選びと装着しやすさや、動きやすさ等、トータルコストを意識して検討していく。

#### イ 利用者ニーズに対応した介護力・看護力の向上

(ア) 利用者一人ひとりの個別ケアを支援し、在宅の延長としての家庭的なサービスの充実に努めた。

(イ) 利用者のニーズや家族の思いを丁寧に傾聴し、尊厳を持った接遇とケアプランによりその思いを反映させ、顧客満足度を高めるよう努めた。

## 5 利用者の安全・安心確保とサービスの向上

### (1) 安心・安全な環境づくり

利用者の身体、精神の状態を十分に把握し、医師、看護師、介護職員、介護支援専門員、管理栄養士、機能訓練士、相談員と情報を共有、連携することで、健やかに安心して生活できるよう支援する。また、各種会議・委員会を含め組織全体を見直し、更に利用者への対応が緻密になるよう、安定した組織作りに努める。

#### ア 危機管理委員会の開催

毎月開催し、事故発生における原因や要因を分析共有し、事故防止対策に取り組んだ。

#### イ 虐待の芽チェックリストの実施

虐待の芽チェックリスト（東京都保健福祉財団高齢者権利擁護支援センター作成）を用いたアンケート調査を実施し、結果について職員間で共有するほか、虐待防止に資する研修に参加し、利用者の安心・安全な環境づくりに努めた。

#### ウ 新型コロナウイルス感染症への対応

4月より各自治体で高齢者を対象にしたワクチン接種が開始され、やすらぎの園も利用者及び職員のワクチン接種が5月中旬から6月にかけて行われた。更なる感染拡大が懸念される中で、入所者と職員の3回目のワクチン接種が令和4年1月～2月に行われた。ワクチン接種の効果と感染対策の徹底により、利用者及び職員の感染症発生を抑えることができた。入所者は高齢であり、感染した場合は重症化するリスクも高いため、令和4年度も感染状況を把握し感染防止対策を継続していく。

法人の感染症防止対策委員会を軸に、施設の感染症防止対策委員会を開催し、職員の感染症リスクに対する意識を高めるとともに、標準予防策の徹底を図り施設内感染の予防に努めた。

#### エ 面会について

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、利用者と家族の対面での面会を中止し、令和2年6月よりオンライン面会を開始した。オンライン面会は、利用者の安心・安全や面会者の利便性アップ、感染防止対策等につながり感染者は発生しなかった。

令和3年12月中旬より感染者が減少し対面面会を開始したが、令和4年1月に入り感染者の増加にともない対面面会を中止し、オンライン面会へ変更した。

#### オ 行事や余暇活動について

コロナ禍に入り定例で行なってきた行事は、職員が創意工夫を凝らしながら取り組んできた。感染防止のため、家族は行事等に参加することができないため四季折々に行われる行事の様子を撮影した写真付きメッセージを利用者全員の家族に送り安心感を提供できるよう努めた。ボランティアの受け入れについても、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となった。

#### カ 施設内苦情解決委員会の開催

施設内苦情委員会を毎月開催し、利用者や家族の苦情を丁寧に傾聴し、事案解決に向けて迅速かつ適切に取り組み、職員間で情報共有する等対応の徹底を図った。

## キ 栄養管理

利用者の身体状況や食事に対する嗜好に配慮し、安心・安全な食事の提供に努めた。また、旬の食材や行事食・日本各地の郷土料理などを取り入れ、季節を感じることができ、食べるのが楽しいと感じてもらえる食事を提供した。

### (2) 利用者ニーズに対応した介護力・看護力の向上

ア 利用者のニーズや家族の思いを傾聴したうえで、施設サービス計画に反映させ利用者一人ひとりの生活スタイルに合わせた個別ケアを実施し、確実なサービスの提供に努めた。

イ 利用者に安心して生活していただくために、介護の専門職としての知識、技術、接遇の向上に努め、思いやりをもってサービスを提供した。

ウ 協力医療機関との連携を密にしながら、疾病の予防と早期発見・早期相談に努めた。さらに、利用者がその人らしく安楽な最期を迎えられることができるよう、看護師、介護職としての役割を自覚し看取りケアに取り組んだ。

エ 利用者の身体機能の維持・向上のために、機能訓練士と介護職員が情報共有を図り、日々の日常生活動作訓練を個別機能訓練計画書に沿って実施した。

オ サービスを提供するにあたり、職員一人ひとりが個人目標を設定し、主体的に管理することで、組織運営・組織貢献の参画意識を高めた。

### (3) 第三者評価事業の受審

毎年受審している福祉サービス第三者評価事業を令和3年度も実施した。評価機関（株式会社ケアシステムズ）に委託し、利用者への聞き取り調査を含め、サービスの質の向上への取り組みや権利擁護、安全・安心確保への対応について、評価を受けた。評価結果の改善すべき点を計画的に取り組み施設全体で見直しを図った。

## 6 人材育成

法人研修委員会が実施する専門研修を中心に、全職員が参加できる機会を計画的に付与し、全体のレベルアップを図った。また、施設内研修委員会は法人研修委員会と連携を図り、看取りや感染症及び身体拘束等、介護施設に求められる専門性の高い研修を企画立案した。外部研修においては、コロナ禍の状況に対応できるようオンライン研修等を活用し参加した。

### (1) 法人内研修会への参加状況

#### (職階別研修)

4月	新任研修①	6名	集合
	新任研修②	4名	通信
	新任研修③	4名	通信
4月～9月	管理職研修	3名	通信
9月	勤続4年目・5年目研修	3名	通信
10月	新任フォローアップ研修	4名	通信
11月～12月	勤続3年目研修	4名	通信

12月～1月	勤続10年・15年目研修	3名	通信
10月・12月	施設長研修	2名	プレゼン
1月	係長研修	7名	ズーム
1月～2月	勤続2年目研修	5名	通信
2月～3月	管理職研修	3名	プレゼン動画

(専門研修)

5月～10月	実践研究研修①	4名	ハイブリット
	実践研究研修②	4名	施設単位集合
	実践研究研修③	3名	施設単位集合
5月	権利擁護研修	75名	動画視聴
6月	労務管理研修	68名	動画視聴
8月	資格取得動機づけ研修	39名	通信
11月	実践研究発表大会	8名	集合
11月	グリーンケア研修	3名	集合
12月～2月	感染症防止対策研修	102名	通信
12月	個人情報保護研修	31名	動画視聴
3月	メンタルヘルス研修	24名	動画視聴

(施設内研修)

6月	緊急時の対応	9名	集合
7月	感染症防止対策研修	10名	集合
9月	介護事故予防(KYT)研修	13名	集合
10月	権利擁護(身体拘束①)研修	7名	集合
11月	看取りケア研修	10名	集合
2月	権利擁護(身体拘束②)研修	8名	集合
3月	褥瘡予防研修	11名	集合
12月・3月	排泄ケア(オムツの当て方)	18名	集合
年間購読 「おはよう21」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者虐待防止研修</li> <li>・接遇研修</li> <li>・身体拘束の排除</li> <li>・感染症の予防と対策</li> <li>・介護事故の防止対策</li> <li>・緊急時の対応</li> </ul>	全職員対象	動画視聴

(2) 外部研修会への参加状況（各研修1名ずつ参加）

認知症介護実践リーダー研修 感染症拡大のため2回中止令和4年度へ変更	集合研修
ユニットリーダー研修	オンライン
管理職のためのメンタルヘルス講習会	オンライン
職員のためのメンタルヘルス講習会	オンライン
ハラスメント防止等管理職向けリスクマネジメント	オンライン
リスクマネジメント研修（介護現場における利用者の尊厳を守る）	オンライン
介護職員スキルアップ研修（医療的知識編）	集合
施設職員向け福祉用具講習会（実践型講習会）	集合
施設職員向け福祉用具講習会（集合型講習会）	動画配信

(3) 目標管理

令和2年度より職員への目標管理を導入し、利用者サービス及び稼働率向上を職員全員が同じ目標のもと今年度も継続して業務にあたっている。目標を掲げることにより、組織運営・組織貢献への参画意識が高まり、職員個々の主体性の向上とモチベーションアップに繋がっている。さらに、組織目標と、職員一人ひとりの目標の方向性を統一することで、より一層組織全体が活性化できるように努めた。

7 施設利用者に対する虐待防止と権利擁護

- (1) 更衣、排泄、入浴等、直接ケアを実施する場合は、利用者のプライバシーを保護する対応により個人の尊厳の尊重に努めた。
- (2) 令和3年の制度改正により、すべての介護サービスに対し、利用者の人権の擁護、虐待の防止等の観点から、虐待の発生又はその再発を防止するための委員会の開催、指針の整備、研修の実施、担当者を定めることが義務付けられ、マニュアルを作成し実施してきた。さらに、「虐待の芽チェックリスト（東京福祉保健財団高齢者権利擁護支援センター作成）」を6月に実施し、その結果を職員へ周知、虐待防止に努めた。
- (3) 身体拘束適正化委員会を毎月開催し、利用者の人権擁護の観点から高齢者の人権を保障しつつケアを行うという基本姿勢に立ち、様々な対応方法を検討することで身体拘束ゼロを継続している。

8 施設における新たな取り組み（改築・大規模修繕等）

- (1) 給食センター機器修繕計画に基づき、外調機補修作業及びばっ気ブロアー交換を実施した。
- (2) 空調機器の保守点検委託実施に向けて委託内容及び事業者の検討を行った。
- (3) 今後5年間の施設の整備・補修・機器入替等の検討を始めた。
  - ア 浴室機械浴槽の修繕及び機器入替
  - イ 入所者見守りセンサーの整備に向けて事業者と検討した（補助対象事業）

ウ 建物建築業者による施設建築物の劣化診断を実施するとともに、建物設備の長期修繕計画策定に向けた検討を行った。

(4) 施設BCP策定に向けて、令和3年7月東京都主催の研修に参加し、施設運営会議において研修内容の情報共有を図るとともに法人防災管理委員会において法人施設全体の策定計画等の協議を行った。

(5) 職員体制の見直し

従来型（定員116名）における現状のグループ体制を廃止し担当制とした。体制整備により、職員一人ひとりのスキルを高め、利用者の細かいニーズに対応できるよう施設内研修を充実させ資質の向上に努めた。

## 【6】診療施設 南台病院

### 1 施設の運営方針

令和3年度においても、新型コロナウイルス感染症が蔓延しており、遠隔での面会、患者の入院・転院時の対応、マスクの着用等、医師や感染管理認定看護師を中心に感染防止に向けあらゆる対策を取りながら運営してきた。

令和3年度の当初の計画における患者数については、1日平均入院患者数を109名、1日平均外来患者数を100名としたが、令和元年度末頃から発生している新型コロナウイルス感染症の影響が長引く中、どちらの患者数も目標値には及ばなかったため、補正予算において1日平均入院患者数を108名、1日平均外来患者数を87名に下方修正せざるを得なくなった。

結果、当初の目標とする患者数には達せず、また、新型コロナウイルス感染症流行前の水準には回復しなかったものの、令和2年度に比べ入院については、1日平均入院患者数は2.3名増の107.1名、1日入院診療単価は1,193円増の25,063円となった。また、外来についても、1日平均外来患者数は0.9名増の84.2名、1日外来診療単価は225円増の5,748円となり、収益増に繋がった。特に入院診療の収益増については、令和3年5月に医療療養病棟58床を54床に減床させ、収益増が見込まれる地域包括ケア病棟28床を32床に増床したことも大きな要因となった。

健診事業においては、感染症対策をしつつ1日の受診者数や実施時間を増やしたことで、受診者数が昨年度に比べ約1,000名の増となり、健診収益の増に繋がった。

令和4年度においては、診療報酬改定があり、地域包括ケア病棟等の施設基準が厳しくなる中、現状の施設基準の維持はもちろんのこと、病床稼働率の向上や新たな加算取得を目指し収益増に努めていく。

2 人員配置

(単位：名)

職 種	配置基準 (国等)	配置基準 (加算分)	配置基準 小計(①)	基準超過分 (②)	配置基準計 (定員数) (①+②) A	令和4年3月31日現在人員配置状況					配置基準計 (定員数) との差 B-A
						正規職員 (③)	非常勤職員	派遣職員 (再掲)	非常勤職員 常勤換算 (④)	実人員数 (③+④) B	
医師	7.0	2.2	9.2		9.2	4.0	19.0		4.0	8.0	▲ 1.2
歯科医師		0.4	0.4		0.4		2.0		0.4	0.4	0.0
事務部長			0.0	1.0	1.0	1.0				1.0	0.0
薬剤師	2.0	0.5	2.5		2.5	1.0	3.0		1.5	2.5	0.0
診療放射線 技師	2.5		2.5		2.5	1.0	3.0		1.5	2.5	0.0
臨床検査技師	3.8		3.8		3.8	2.0	4.0		1.8	3.8	0.0
管理栄養士	1.0	1.0	2.0		2.0	2.0				2.0	0.0
理学療法士		6.0	6.0		6.0	3.0				3.0	0.0
作業療法士				3.0				3.0			
看護部長			0.0	1.0	1.0	1.0				1.0	0.0
看護師 (外来・病棟)	38.0	18.0	56.0		56.0	44.0	15.0	1.0	9.6	53.6	▲ 2.4
看護師 (医療相談室)		1.0	1.0		1.0	1.0				1.0	0.0
看護師 (健康管理室)		1.6	1.6		1.6		2.0		1.6	1.6	0.0
介護職員	22.0	8.6	30.6		30.6	23.0	8.0	5.0	5.5	28.5	▲ 2.1
歯科衛生士		0.5	0.5		0.5		2.0		0.5	0.5	0.0
社会福祉士		3.0	3.0		3.0	3.0				3.0	0.0
事務職		1.0	1.0	5.3	6.3	5.0	1.0		0.3	5.3	▲ 1.0
運転手 クレーク			0.0	1.8	1.8		6.0		1.8	1.8	0.0
合 計	76.3	43.8	120.1	9.1	129.2	94.0	65.0	6.0	28.5	122.5	▲ 6.7



### 3 利用・収支等の状況

#### (1) 利用人員

	定員	令和3年度 事業計画	令和3年度 事業実績	達成率
入院	122名	109名	107.1名	98.3%
外来	---	100名	84.2名	84.2%

#### (2) 収支状況

(単位：千円)

	令和2年度 決算額	令和3年度 当初予算額	令和3年度 補正後予算額	令和3年度 決算額	執行率
収入	1,345,858	1,296,351	1,301,836	1,284,148	98.6%
支出	1,306,494	1,295,397	1,287,613	1,274,730	99.0%
収支差額	39,364	954	14,223	9,418	-

#### ※人件費の状況

(単位：千円)

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
人件費率	67.0%	64.4%	72.9%	72.5%	67.3%
金額	784,142	781,631	879,532	858,890	856,116
対前年度 増減額	-	▲ 2,511	97,901	▲ 20,642	▲ 2,774

### 4 収支の安定確保

#### (1) 広報活動の強化

平成28年6月から広報紙「みなみかぜ」を毎月発行し、これまで67回発行した。法人内施設、近隣院外処方薬局、小平市公共施設、スーパーマーケット店内、タクシー車内の備付や近隣町会掲示板、近隣マンション掲示板などへの貼付などを継続して行い、内容についてもタイムリーな題材をテーマにした掲載に努めた。

#### (2) 診療単価の向上

入院については、令和3年5月に地域包括ケア病棟を28床から32床に増床（医療療養病棟58床を54床に減床）したこともあり、昨年度に比べ入院診療単価は1,193円増の25,063円となり、また、外来においても検査数が増えたことで、外来診療単価は225円増の5,748円であった。

診療単価の令和3年度月別推移（1人1日当たり）

（単位：円）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	半期平均
A病棟	一般病棟	23,539	24,475	24,792	23,255	23,851	24,998	24,139
B病棟	医療療養病棟	18,963	19,304	19,363	19,423	19,646	19,870	19,435
C病棟	地域包括ケア	34,475	34,246	34,345	34,331	34,410	34,415	34,368
入院合計		24,374	25,163	25,116	24,525	24,978	25,153	24,888
外 来		5,788	5,938	5,772	5,399	6,012	5,776	5,773

		10月	11月	12月	1月	2月	3月	年平均
A病棟	一般病棟	25,703	26,646	24,349	24,325	26,242	25,824	24,810
B病棟	医療療養病棟	19,701	19,617	19,741	19,665	19,409	19,522	19,526
C病棟	地域包括ケア	34,264	34,669	34,698	34,132	34,113	34,447	34,375
入院合計		25,503	25,352	25,147	25,023	25,265	25,122	25,063
外 来		5,688	5,980	5,425	5,795	5,829	5,645	5,748

## 5 利用者の安心・安全確保とサービスの向上

- (1) 利用者の事故防止対策を徹底するため、最新の事故防止マニュアルを基に一定の手順による業務遂行に努めるほか、万が一不適切な事例が発生した際には、発生した事例の内容により本部に報告し適切な事後の処理を行なうとともに、発生要因や背景などを分析し、同様な事例が発生しないようマニュアルを改正するなど適正な業務の遂行に努めた。
- (2) 医師や感染管理認定看護師を中心に新型コロナウイルス感染症対策のため、オンラインによる面会、来院者にはマスクの着用を徹底させるなど院内感染防止に努めてきた。
- (3) 感染対策委員会の委員による院内巡視を毎月実施し、インフルエンザ発生抑止対策、カビの発生防止対策、各病室に設置している手指消毒液量の確認及び消毒液の使用期限などの点検を励行するほか、院内衛生委員会の委員による医薬品、有毒化学物質等の適切な保管管理状況の確認、洗面所やトイレの清掃状況、休憩室や職員仮眠室の整理整頓状況、院内の廊下や階段部の安全確保状況等について関係職員を帯同させて点検するなど、衛生管理向上に必要な指導に努めた。
- (4) 平成30年度から外来受付ロビーに病院概要、検査施行の流れ、疾病に関する内容・話題などについて利用者が理解しやすいように構成した内容をモニターで放映しており、令和3年度も引き続き実施してきた。
- (5) 令和3年度のインシデント・アクシデントレポート件数は358件であった。レベル0と1については、内服薬・予約等の準備時や実施直前または、実施後の確認作業が十分でなかったため発生していたことから、業務手順や業務マニュアルに沿った業務実施体制に努めるとともに、医療安全管理者をはじめ病棟・外来責任者によるダブルチェックの確認の励行などを通じて指導し再発防止に努めた。

### 令和3年度において、南台病院で発生したインシデント発生状況

レベル	主な内容	件数
0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病棟で分包された内服薬をダブルチェック中に1錠多く入っていた事例</li> <li>・同性同名の患者IDの入力誤りで他の患者が入院予約されていた事例</li> </ul>	66件
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ベッド上や床に内服薬が落ちていたが患者には異変が生じなかった事例</li> <li>・ベッド柵を外しトイレに行こうとして歩いていた事例</li> <li>・違う形態の果物が同じトレイにあったが、配膳される前に気づいた事例</li> </ul>	157件
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症や理解力低下のある患者が、拘束具の解除を試みている間に点滴や中心静脈栄養のルートを自己抜去してしまった事例</li> <li>・精神疾患や理解力低下のある患者が、病棟・病院内から離院した事例</li> <li>・心電図検査で、装着部位の誤りのために正しい波形が取れなかった事例</li> </ul>	135件

レベル0・・・当該行為等が患者様には実施されていないが、実施された場合何らかの被害が生じたであろうと予測できる事案

レベル1・・・当該行為等が患者様に実施されたが、結果的に被害がなかった事案

レベル2・・・当該行為等を原因として、患者にバイタルサインに変化が生じ、観察強化や検査の必要が生じた事案

レベル3・・・当該行為等を原因として、患者のバイタルサインに変化が生じ、新たな治療や処置が必要となった事案

レベル4・・・当該行為等を原因とする後遺症が残る可能性が生じた事案

レベル5・・・当該行為等が原因となって患者が死亡した事案

#### (6) 「利用者の声」の把握と対応

院内5か所に投書箱を設置し、利用者からの苦情・要望などを収集し、院長以下幹部職員が出席するスタッフ会議で投書内容を検討し、職員への周知が必要な場合には、部門責任者が出席する運営会議に報告し改善に努めた。

	主な内容	件数
苦情	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今朝の食事は最悪でした。猫の餌のような煮干しに栄養はあるのでしょうか。見ただけで食欲減退、申し訳ないけど残します。</li> <li>・領収書の文字を大きくしてください。見えにくい。</li> <li>・予約時刻に受付を済ませましたが、受診までに50分以上待たされました。その間、どなたからの説明もありませんでした。</li> <li>・面会申込時に20分程待たされました。数回催促したましたが、十分な対応がありませんでした。</li> </ul>	4件
お礼	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長い間、主人と私とお世話になっています。前の山田先生からのお付き合いで、大変に信頼を感じております。今後とも長くお付き合いをしていただきたく願っています。また、看護師さんたちも親切で、気持ちよく接して下さいます。感謝です。</li> <li>・リハビリの2か月間、中川先生やリハビリスタッフの皆様、誠心誠意、丁寧に対応していただきました。本当にありがとうございました。</li> </ul>	2件

## 6 人材育成

### ア 看護部

研修項目	開催日	参加者
看護師認知症対応力向上研修 I (WEB)	5月25日	1名
認知症研修 I (WEB)	6月25日	1名
看護補助者のための研修	7月17日	3名
「重症度・医療・看護必要度」評価者研修	8月25日	4名

### イ 放射線科

研修項目	開催日	参加者
第123回 TCTT 主催講義『CT装置の精度管理』	4月26日	1名
ゲルベジヤパン ～COVID-19の画像診断	6月30日	1名
ゲルベジヤパン 臨床に役立つ骨盤領域の画像診断	7月14日	1名
内視鏡検診の新たな可能性を目指して	9月17日	1名
GE Edison Seminar 2021	10月2日	1名
第99回多摩画像研究会	11月8日	1名
造影検査ステップアップセミナー	12月8日	1名
ゲルベジヤパン 知って得する画像診断の最新情報	12月15日	1名
ゲルベジヤパン 臨床に役立つ腹部領域の画像診断	1月26日	1名
日常診療に潜む 肺高血圧症	3月22日	1名

### ウ 検査科

研修項目	開催日	参加者
検体採取資格取得研修	8月28日	1名
一般検査セミナーEIKEN2021 第1回尿沈査で鑑別できるウイルス感染細胞 (WEB)	9月13日～ 24日	6名
失神患者様の病診連携セミナー	11月15日	1名
関東甲信越地方学術集会	10月16日～ 11月30日	1名
一般検査セミナーEIKEN2021 第2回尿沈査クイズ 2021 必見!病態を見極めるために重要な検査所見	1月1日～ 16日	6名

### エ 薬剤科

研修項目	開催日	参加者
薬学ゼミナール生涯学習センター (e-ラーニング) —心臓の病気を知ろう—	5月5日	1名
浅草薬剤師会 (WEB) —腎臓病患者の貧血—	5月18日	1名
小平市薬剤師会—ミニリンメルト OD錠について—	5月27日	1名
仙台中医学講座 (WEB)	6月13日	1名
東海漢方研修会 (WEB)	7月11日	1名

研修項目	開催日	参加者
小平市薬剤師会 (WEB) —増え続ける肺非結核性抗酸菌症—	7月29日	1名
小平市薬剤師会 (WEB) —メトホルミンMTの情報—	8月26日	1名
東京都薬剤師会 (WEB) —令和3年度 薬学講習会—	8月29日	1名
慢性便秘症 WEB シンポジウム	9月3日	3名
日本生薬学会 (WEB)	9月19日	1名
小平市薬剤師会 (WEB) —漢方薬の服用と注意点—	9月30日	1名
小平市薬剤師会 (WEB) —蕁麻疹・アトピー性皮膚炎の治療薬—	10月28日	1名
小平市薬剤師会 (WEB) —学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理—	11月7日	1名
循環器疾患連携セミナー (WEB)	3月30日	2名

#### オ 事務部

研修項目	開催日	参加者
精神疾患ブラッシュアップ研修	1月26日	1名

#### 7 施設利用者に対する虐待防止と権利擁護

- (1) 利用者からの意見や苦情などの申し出については、苦情相談員が窓口となり、意見や苦情内容、申し出に至った経緯を十分に聴取し、把握した上で苦情解決責任者に報告するとともに責任者は必要に応じて本部に速やかに報告し、指示を仰ぐなど迅速な対応に努めてきた。
- (2) 外来受付、病棟など数箇所に意見箱を設置して、利用者からの意見、要望などを確認している。また、院内全体で検討する必要がある事案などは、院内幹部会議で必要な対応、対策を検討し、その結果を院内掲示板に掲示することで利用者に対して適時適切な対応に取り組んできた。
- (3) 虐待の芽チェックリスト（東京都福祉保健財団高齢者権利擁護支援センター作成）により利用者への虐待や不適切な対応などに対する職員の意識レベルを年1回測定し、その結果をもとに職場内学習会などで利用者に対する適切なサービスを堅守し、職業倫理意識の一層の醸成に努め、利用者や職員間の虐待、いじめ等の発生を防止した。

【7】指定就労継続支援B型事業所 のぞみ作業所

1 施設の運営方針

一般就労が困難な知的障がい者等が、自立した日常生活や社会生活を営むことができるよう就労の場を提供するとともに、利用者一人ひとりの能力に応じた支援を行い、自己決定を尊重し自立に向けた生活が可能になるよう総合的なサービスを提供した。利用者本人の能力と働く意欲を尊重し、作業意欲の向上を図りつつ、作業工賃の増加に繋げた。さらに、利用者の健康管理や対人関係等、地域の中で生活が送れるよう支援した。

2 人員配置

(単位：名)

職 種	配置基準 (国等)	配置基準 (加算分)	配置基準 小計(①)	基準超過分 (②)	配置基準計 (定員数) (①+②) A	令和4年3月31日現在人員配置状況					配置基準計 (定員数) B との差 A
						正規職員 (③)	非常勤職員	派遣職員 (再掲)	非常勤職員 常勤換算 (④)	実人員数 (③+④) B	
施設長	1.0		1.0		1.0	1.0				1.0	0.0
サービス 管理責任者	1.0		1.0		1.0	1.0				1.0	0.0
目標工賃 達成指導員		1.0	1.0		1.0	1.0				1.0	0.0
支援員	7.3	2.2	9.5		9.5	8.0	2.0		1.5	9.5	0.0
調理員		2.0	2.0		2.0	1.0	3.0		1.0	2.0	0.0
事務員			0.0	1.0	1.0	1.0				1.0	0.0
送迎員		1.0	1.0		1.0		1.0		1.0	1.0	0.0
清掃員			0.0	0.5	0.5		1.0		0.5	0.5	0.0
合 計	9.3	6.2	15.5	1.5	17.0	13.0	7.0	0.0	4.0	17.0	0.0

※清掃員は障害者雇用を活用し、非常勤職員1名（常勤換算0.5名）を配置。

### 3 利用・収支等の状況

#### (1) 利用人員用

	定員	令和3年度 事業計画	令和3年度 実績	達成率
通所	55名	55名	52.6名	95.6%

#### (2) 収支状況

(単位：千円)

	令和2年度 決算額	令和3年度 当初予算額	令和3年度 補正後予算額	令和3年度 決算額	執行率
収入	174,193	190,276	187,676	187,492	99.9%
支出	166,304	189,047	184,766	179,901	97.4%
収支差額	7,889	1,229	2,910	7,591	-

#### ※人件費の状況

(単位：千円)

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
人件費率	62.8%	60.5%	61.3%	60.3%	60.6%
金額	103,304	100,304	103,200	105,396	113,386
対前年度 増減額	-	▲ 3,000	2,896	2,196	7,990

### 4 収支の安定確保

#### (1) 稼働率等や加算取得の見込み

利用者の高齢化（平均年齢：40.6歳）、新型コロナウイルス感染症の流行等により、年々、欠勤者が増加してきていることから、近隣の特別支援学校、相談支援事業者等の各種団体との連携を密にし、新規利用者の確保に取り組んだ。しかしながら、新型コロナウイルス感染症拡大を防止するため、施設見学、施設実習者の受け入れを一時的に自粛する中、実習期間の短縮等の感染防止策を講じて、必要最小限の実習生2人（田無特別支援学校在校生1人、他福祉施設利用者1人：延べ6日）を受け入れた。

実習期間中は、実習生の作業能力を把握するため、製品加工作業、清掃作業、販売活動、資源回収等、様々な作業をローテーションで体験してもらい、実習最終日に実習生、保護者、関係者を含めた「作業のふりかえり」を実施し、施設利用の適性を判断した上で令和3年度は新たに2名の利用者（男性2名）を確保した。

また、通所稼働率100%を維持するとともに、指定障害福祉サービス報酬費における目標工賃達成指導員配置加算、福祉専門職員配置等加算Iを再取得した。

また、新型コロナウイルス感染症拡大により、通所に不安を抱える利用者については、厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部障害福祉課通知「新型コロナウイルス感染症に係る障害福祉サービス等事業所の人員基準等の臨時的な取扱いについて」に準じて、関係機関と協議の上、在宅支援対象者とし認定し、通常どおりに障害福祉サービス等報酬を確保できた。(11～3月：延べ29人249日分)

## (2) 生産活動

ア 清掃委託作業や資源回収に力を入れ、不動産業者、地域の商店街、取引業者等を対象として受注先を増やす一方で、在宅サービス総合センターをはじめ、法人内施設と連携を図り、地域の高齢者宅の清掃、資源類(古紙)回収、庭の手入れ等、新たな受注を確保することで収入増を図った。

イ 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、地域のお祭りや各種イベント等が中止となり、各種製品等の販売活動が抑制されたが、ハーブを活用した「バスポプリ」「香り袋」や武蔵野美術大学の学生と共同制作した「缶バッチ」等の自主製品を販売し収入増を図った。また、地域の店舗にのぞみ作業所の商品を陳列、販売委託するなど、地域に密着した販売拠点(ルート)の拡大を図った。

(単位：千円)

生産活動内容	内 容	令和2年度	令和3年度	増 減
受託事業収益	化粧箱折、ペン入れ等下請け作業、シャボン玉セット製作、ダイレクトメール封入など	8,427	7,055	▲1,372
清掃事業収益	清掃活動(公園清掃・マンション清掃)等	1,956	2,130	174
販売活動収益	野菜等委託及び自主製品(バスポプリ)販売	347	279	▲68
資源回収収益	ダンボール古紙等回収	3,422	3,929	507
計		14,152	13,393	▲759

## (3) 経費の削減など支出の合理化について

施設管理経費、運営事務費等の経常経費については、コピー用紙の両面印刷等の励行や節電・節水を徹底し、事務経費の節減に努めた。また、保護者の理解・合意のもと、利用者の給食費(1食350円)の増額や、送迎費の徴収(1日300円)を継続実施することで利用者負担を実費相当額に近づけた。また、新型コロナウイルス感染症拡大の防止として、のぞみ祭り、一泊旅行等の各種行事が中止となったため、事業経費が未執行となり支出額が減少した。



## 5 利用者の安心・安全確保とサービスの向上

### (1) 利用者サービス

利用者の作業能力の向上を図るため、多種多様な作業を提供し、長所を伸ばし短所を克服するような指導を行い、働き甲斐のある仕事場が提供できるよう一般就労を目指した環境を整備し、支援を行った。

利用者の健康管理に関しては、定期的な体重管理、日常の利用者の健康チェックを推奨した。新型コロナウイルス感染症の影響から、例年、南台病院で実施していた血液検査、胸部レントゲン等の健康診断を多摩済生病院で実施（受診希望者のみ（25名）。自己負担 3,000 円）、11月にインフルエンザ予防接種を実施した。

### (2) 利用者の安心・安全確保

新型コロナウイルス感染症拡大の防止策として、令和2年2月に「新型コロナウイルス感染症への対策」を策定し、施設における感染防止対策を利用者（保護者）及び職員に周知した。感染防止対策として、3密（密閉・密集・密接）を避け、利用者及び職員の手洗い・うがいを徹底するほか、利用者の送迎時には窓を開ける等の車内の換気、作業時には利用者同士の距離（ソーシャルディスタンス）を配慮した。食事に関しては、食事時間に時差（2交代制）を設け、座席の間隔を空けての食事提供、併せて食堂内の衛生管理を徹底した。

また、東京都、東京都社会福祉協議会からサージカルマスク、高濃度エタノール等の寄贈を積極的に受け入れ、小平市障がい事業所等衛生用品・備品等購入補助金（上限額：10万円）、小平市障がい事業所等感染拡大防止対策補助金（上限額：10万円）、小平市事業者向け感染防止徹底協力金（3万円）を活用し、体温計、フェイスシールド、パーテーション等の衛生用品を購入し、施設内の感染防止に努めた。

災害時に備え、3日分の非常食（約250食）、飲料水（約300ℓ）を備蓄するとともに、自衛消防訓練として、利用者・職員全員が参加する避難訓練を実施した（10回実施）。

### (3) 環境整備

日頃から作業所内外の美化活動と整理整頓を行うとともに、施設環境整備のため、障害者雇用枠として清掃作業員（非常勤職員）1名を採用し、施設内外の美化活動と整理整頓、危険の防止に努め、利用者と職員による大掃除を年2回実施した。また、建物及び機器の老朽化に伴う修繕、機材の交換に関しては、施設内で優先順位を決定し、計画的に実施した。

### (4) 開かれた施設運営

例年、保護者会を定期的（年3回）に開催し、利用者の作業、生活状況や施設の運営状況について報告及び意見交換を行い、施設運営に関する共通認識を持つよう努めているが、新型コロナウイルス感染症拡大の防止から、保護者会の開催を自粛した。保護者会が開催されないことから、施設に対する意見や要望を、

随時、書面等により提出できる旨を保護者に周知し、保護者から意見をいただいた（3件：コロナ禍でも施設開所している作業所への感謝等）。

また、社会福祉施設介護等体験希望者、施設行事ボランティアの受け入れに関しても、利用者及び施設職員以外の立入りを制限したため、令和3年度も受け入れを自粛した。

#### （5）福祉サービス第三者評価の受審

「利用者のサービスの選択」及び「事業の透明性の確保」のための情報提供と継続的な利用者サービスの質の向上に向けた取り組みを目的として、株式会社ケアシステムズによる福祉サービス第三者評価を受審した。11月26日に職員自己評価、12月7日に利用者調査（聞き取り）等を実施した。

### 6 人材育成

#### （1）法人内研修への参加状況

- 課長研修（1名）
- 勤続3年目研修（1名）
- 勤続19・20年目研修（2名）
- 感染症防止対策研修（全職員）

#### （2）外部研修への参加状況

- 強度行動障害支援者養成研修（1名）
- 障害者差別解消法と合理的配慮研修（2名）
- SDGs 福祉研修（1名）
- 給付費請求情報交換会（1名）

### 7 施設利用者に対する虐待防止と権利擁護

虐待防止チェックリストを利用したアンケート調査の実施、研修参加報告及び関連文献等を利用した虐待防止対策について、職員会議を利用し、全職員に周知徹底した。さらに、接し方チェックリストを利用し、職員の自己チェックを行いながら、虐待防止への意識づくりに着手した。

## 【7-1】 共同生活援助 グループホームどりーむ・のぞみ

### 1 施設の運営方針

住み慣れた地域で、障がいのある人が障がいのない人と同じように、地域の中で、自分の生き方を選択して生活できる場を提供する。家庭的な雰囲気の中、少人数で共同生活を行い、一人ひとりのニーズに合った暮らしを提供し、安心して暮らせるように支援した。また、利用者へのサービスの質の向上を図るとともに、利用者の保護者との情報の共有を行い、利用者がそれぞれの生活リズムで落ち着いて暮らせるような環境づくりを支援した。

### 2 人員配置

(単位：名)

職 種	配置基準 (国等)	配置基準 (加算分)	配置基準 小計(①)	基準超過分(②)	配置基準計 (定員数) (①+②) A	令和4年3月31日現在人員配置状況					配置基準計 (定員数) B との差 A
						正規職員 (③)	非常勤職員	派遣職員 (再掲)	非常勤職員 常勤換算 (④)	実人員数 (③+④) B	
施設長	(1.0)		(1.0)		(1.0)					(1.0)	0.0
サービス 管理責任者	0.2		0.2		0.2		0.2		0.2	0.2	0.0
生活支援員	1.1	0.3	1.4		1.4		2.8		1.4	1.4	0.0
世話人	3.3	0.1	3.4		3.4		8.0		3.4	3.4	0.0
合 計	4.6	0.4	5.0	0.0	5.0	0.0	11.0	0.0	5.0	5.0	0.0

※施設長は、のぞみ作業所所長が兼務

### 3 利用・収支等の状況

#### (1) 利用人員

	定員	令和3年度 事業計画	令和3年度 実績	達成率
どりーむ・のぞみ	7名	7名	7.0名	100.0%
第2 どりーむ・のぞみ	6名	6名	6.0名	100.0%

#### 4 収支の安定確保

##### (1) 稼働率等や加算取得の見込み

「どりーむ・のぞみ」「第2どりーむ・のぞみ」とも入所稼働率 100%であり、共同生活援助サービス費Ⅰ、夜間支援等体制加算、福祉専門職員配置等加算の障害福祉サービス報酬費を確保できた。

##### (2) 経費の削減など支出の合理化について

施設管理経費、運営事務費等の経常経費については、コピー用紙の両面印刷等の励行や節電・節水を徹底し、事務経費の節減に努めた。また、家賃（どりーむ・のぞみ月額 5 万円、第2どりーむ・のぞみ月額 5 万 8 千円）、光熱水費（月額 1 万円）、食材料費（月額 2 万 4 千円）、日用品費（月額 1 千円）等の利用者費用を適正に徴収した。

#### 5 利用者の安全・安心確保とサービスの向上

##### (1) 利用者サービス

世話人や生活支援員による食事の提供や金銭の出納、健康管理に関する助言、日常生活の相談等により、利用者がそれぞれの生活リズムでのびやかに気持ちよく暮らせるよう支援した。また、定期的に、世話人会議を開催し、職員間で利用者の状況について情報共有を図り、共通認識を持てるように努めた。

利用者の健康管理に関しては、定期的な体重管理等、利用者の健康チェックを推奨するとともに、日中活動の場において健康診断、インフルエンザ予防接種を実施できるように支援した。また、利用者が楽しい時間を過ごし、安定した生活を送ることができるよう、利用者同士のコミュニケーションを深めるため、誕生日会、クリスマス会等の各種行事を開催した。

##### (2) 利用者の安全・安心確保

利用者の病状の急変等に備えるため、南台病院と協力医療機関契約を締結し、グループホームの利用者の健康保持のため、必要に応じて健康指導、健康診断受診を行った。

新型コロナウイルス感染症拡大の防止として、バックアップ施設であるのぞみ作業所において、令和 2 年 2 月に策定した「新型コロナウイルス感染症への対策」を参考とし、グループホーム内の感染防止について利用者（保護者）及び職員で共通認識を持った。さらに、東京都からサージカルマスクの寄贈を積極的に受け入れ、小平市障がい事業所等衛生用品・備品等購入補助金（上限額：10 万円）、小平市障がい事業所等感染拡大防止対策補助金（上限額：10 万円）を活用し、アルコール消毒液、飛沫防止用スタンド、除菌シート等の衛生用品を購入し、グループホーム内の感染防止に努めた。

また、災害時に備え、3 日分の非常食（約 50 食）、飲料水（約 70 ㍓）を備蓄するほか、年 4 回、利用者・職員全員が参加する自衛消防訓練（避難訓練）を実施した。

### (3) 環境整備

日頃からグループホーム内外の美化活動と整理整頓に努め、世話人、生活支援員及び利用者による清掃活動を行い、環境整備に努めた。

### (4) 開かれた施設運営

保護者会を定期的（2か月に1回）に開催し、利用者の生活状況について報告を行うほか、必要に応じて保護者との話し合いの場を設けているが、新型コロナウイルス感染症拡大の防止から、令和3年度は保護者会の開催を自粛した。

### (5) 福祉サービス第三者評価の受審

「利用者のサービスの選択」及び「事業の透明性の確保」のための情報提供と継続的な利用者サービスの質の向上に向けた取り組みを目的として、株式会社ケアシステムズによる福祉サービス第三者評価を受審した。11月6日に職員自己評価、12月7日に利用者調査（聞き取り）等を実施した。

## 6 人材育成

### (1) 法人内研修への参加状況

参加実績なし。

### (2) 外部研修への参加状況

グループホーム従事者研修（8名）

## 7 施設利用者に対する虐待防止と権利擁護

虐待防止チェックリストを利用したアンケート調査の実施、研修参加報告及び関連文献等を利用した虐待防止対策について、全職員に周知徹底した。さらに、接し方チェックリストを利用し、職員の自己チェックを行いながら、虐待防止への意識づくりに着手した。

## 【8】介護老人保健施設 けやきの郷

### 1 施設の運営方針

けやきの郷では、法人理念の浸透・深化に努めるとともに、利用者の尊厳を守り、安全に配慮しながら利用者の生活機能の維持・回復を目指して支援を行った。

また、認知症があっても利用者がいきいきとした日常生活が送れるよう環境の維持に努めるとともに、利用者の立場に寄り添った思いやりのある看護・介護サービスの提供に努めた。さらに、包括的ケアサービスの提供を推進し、地域に根ざした在宅療養の支援施設としての役割を担った。

令和3年度の介護報酬改定では、「自立支援・重度化防止の推進」が一つの柱として科学的介護やリハビリテーションが重視された改定となり、けやきの郷ではこれまでのリハビリテーション充実の強みを活かし、通所リハビリテーションの機能強化のため、新規に通所リハビリテーションマネジメント加算を取得し、収益の向上に努めた。

また、新型コロナウイルス感染症にいち早く対応するため、小平市と連携し、4月に国から市に最初に供給された新型コロナワクチンを施設入所者に接種し、1月からは接種券の届いた入所利用者から随時3回目の新型コロナワクチン接種を行った結果、その後も一人の感染者を出すことなく安全な施設運営ができた。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、入所時に個室で一定の隔離期間を設け安全確保を行う一方で、退所希望者は退所先での感染不安などの要因もあり、在宅復帰率やベッド回転率の向上が図れず収益の改善が鈍化したため、近隣病院へ積極的に訪問を行うなど、入所利用者確保に向けた最大の努力を行った。

2 人員配置

(単位：名)

職 種	配置基準 (国等)	配置基準 (加算分)	配置基準 小計(①)	基準超過分(②)	配置基準計(定員数) (①+②) A	令和4年3月31日現在人員配置状況					配置基準計(定員数) B、Aとの差
						正規職員(③)	非常勤職員	派遣職員(再掲)	非常勤職員 常勤換算(④)	実人員数(③+④) B	
施設長(医師)	1.0		1.0		1.0		1.0		1.0	1.0	0.0
副施設長			0.0	1.0	1.0	1.0				1.0	0.0
薬剤師	0.3		0.3		0.3		2.0		0.3	0.3	0.0
管理栄養士	1.0		1.0		1.0	1.0				1.0	0.0
理学療法士・ 作業療法士	1.4	6.6	8.0		8.0	8.0				8.0	0.0
事務職員			0.0	3.0	3.0	2.0				2.0	▲ 1.0
支援相談員	1.0	1.0	2.0	0.4	2.4	2.0	1.0		0.4	2.4	0.0
介護支援専門員	1.0		1.0	1.0	2.0	1.0	2.0		1.4	2.4	0.4
介護職員	32.9		32.9		32.9	24.0	19.0		9.6	33.6	0.7
看護職員	10.0	0.6	10.6		10.6	8.0	4.0		2.6	10.6	0.0
その他			0.0	2.0	2.0		6.0		2.5	2.5	0.5
合 計	48.6	8.2	56.8	7.4	64.2	47.0	35.0	0.0	17.8	64.8	0.6

3 利用・収支等の状況

(1) 利用人員

	定 員	令和3年度 事業計画	令和3年度 実績	達成率
入 所	100名	96名	89.7名	93.4%
通 所	30名	28名	25.3名	90.4%

## (2) 収支状況 (単位：千円)

	令和2年度 決算額	令和3年度 当初予算額	令和3年度 補正後予算額	令和3年度 決算額	執行率
収 入	670,861	582,165	559,237	565,198	101.1%
支 出	631,077	581,144	559,211	565,603	101.1%
収支差額	39,784	1,021	26	▲ 405	-

## ※人件費の状況 (単位：千円)

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
人件費率	63.9%	68.9%	69.8%	74.4%	74.4%
金 額	331,402	355,108	371,911	405,984	409,506
対前年度 増減額	-	23,706	16,803	34,073	3,522

## 4 収支の安定確保

## (1) 利用率の向上

## ア 入所利用者の確保

入所利用者 1 日平均 96 名の目標に対して実績は 89.7 名に留まった。

今年度は入所パンフレットを新たに作成し、これまでの市内及び近隣市からさらにエリアを拡大し、埼玉県所沢市の所沢リハビリテーション病院他計 8 か所の病院に入所案内を送付した。

また、近隣及び市内の医療機関 11 か所、居宅介護支援事業所 51 か所、訪問看護ステーション 4 か所、有料老人ホーム 10 か所の合計 76 か所へリハビリ職員と相談員が直接訪問し、リハビリテーションの充実など施設の強みを前面に押し出しながら施設入所の提案を行い入所利用者確保に努めた。

## イ 通所利用者の確保

デイケアでは、昨年より利用者と利用者間にアクリル板を設置するなど新型コロナウイルス感染対策を行い定員数まで受入れ可能な体制を整備し通所者の増加に努めたが、今年度の実績は 25.3 名であった。

また、デイケアのパンフレットを入所利用者確保のための営業の際に、市内の病院や居宅介護支援事業所に配布し宣伝活動に努めた。

## (2) 在宅復帰率の向上

令和 3 年度の実績は 13.5%、ベッド回転率は 6.5%であった。

在宅復帰率向上に向けて、居宅への復帰が困難な入所利用者の入所先として近隣 10 か所の有料老人ホームに対して営業活動を行い、1 名が有料老人ホームへ入所となった。



	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
在宅復帰率	34.1%	34.0%	18.0%	13.5%
ベッド回転率	8.5%	6.1%	6.3%	6.5%

### (3) 基本報酬加算型の再取得

令和3年度介護報酬改定によりリハビリ専門職の配置割合の見直しや居宅サービス実施割合の算定に訪問リハビリテーションを含むなど算定要件の見直しが行われ、さらに新型コロナウイルス感染症拡大などの要因により在宅復帰率が減少したことで加算型から基本型へ令和3年10月より移行となった。

加算型再取得のために訪問リハビリテーション事業の届出を行い、令和4年3月25日付で令和4年4月1日事業開始の指定通知を受けた。

令和4年4月に訪問リハビリテーションの提供実績を上げ、在宅復帰率及びベッド回転率の算定基準を達成し、基本報酬加算型の再取得を目指す。

訪問リハビリテーション事業の実施に当たっては、リハビリ職員の配置の効率化を行い、課題を整理しながら、在宅サービス総合センターや他の居宅介護支援事業所など関係機関と連携して利用者の確保と事業実施に向けた検討を行った。

### (4) 利用者の平均介護度の重症度割合

在宅復帰・在宅療養支援等評価指標の重症度割合（平均介護度4以上の入所割合）を50%以上に高め、基本報酬加算型を維持するための取得ポイントの確保を目指したが、令和3年度実績は44.8%であった。

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
重症度割合	47.7%	42.8%	43.3%	44.8%

## 5 利用者の安心・安全確保とサービスの向上

### (1) 包括的ケアの推進

利用者の意思を尊重し、居宅及び施設において一体的なサービスを受けることができるよう在宅サービス総合センターとの連携を強化し支援に努めた。また、利用者に応じた個別支援計画の充実を図り、必要な医療、看護や介護、リハビリテーションの提供を行い、関係機関との連携を強化し、介護サービスの充実に努めた。

### (2) リハビリテーション機能の強化

利用者の日常活動や社会参加に支障がないよう、体力、基本動作能力の向上、活動や参加の促進、家庭環境の調整など生活機能全般の向上を目的に、集中的なリハビリテーションの提供を行った。また、理学療法士等のリハビリ専門職の配置増に伴い、個別リハビリテーションの提供及び短期集中リハビリテーション加算

の取得を継続的に行い、リハビリ体制の充実に努めた。

### (3) 在宅復帰の推進

脳血管障害、廃用症候群、認知症等による利用者の症状・状態に応じて医師・看護師・理学療法士・介護支援専門員等の多職種からなるチームケアを行い、早期の在宅復帰に努めたが、新型コロナウイルス感染症拡大による感染不安などの要因もあり在宅復帰率の向上が図れず、加算型では30%以上必要なところ13.5%であった。また、リハビリテーション専門職や介護支援専門員による入所前後・退所前後訪問指導を継続して行い、利用者の在宅生活へのスムーズな移行に繋げた。

### (4) 在宅生活支援の強化

利用者が自立した在宅生活が継続できるよう入所や短期入所、通所リハビリテーション、ベッドシェア等のサービスを円滑に提供するとともにリハビリ専門職等による入所前後・退所前後訪問指導により家族の介護負担を軽減し、退所後の状況確認のため、在宅サービス総合センターと連携し総合的に支援した。また、在宅への復帰が困難な入所者に対しては、特別養護老人ホーム、有料老人ホーム等を紹介し、身体状況や家族環境などに応じた個別の対応を行った。しかし、短期入所については新型コロナウイルス感染症予防のため、入所時に個室で一定の隔離期間を設けたことで利用率が減少した。

### (5) 地域に根ざした施設運営

家族懇談会を年2回以上定期的に開催していたが、新型コロナウイルス感染症予防のため懇談会の開催が困難な状況が続いていたため、利用者の家族等に対して介護保険制度の動向等の情報提供を文書により行うとともに、相談員による電話でのケアを行い、相談体制の充実に努めた。

面会については、面会人数や時間制限を設け感染防止対策を行った上で対面面会を再開したが、新型コロナウイルス感染症再拡大に伴い、オンライン面会に切り替えて面会を行うことができた。

また、地域住民や自治体、各種事業者、保健・医療・福祉機関などと連携し、地域と一体となった包括的ケアを積極的に担うよう努めた。

### (6) 福祉サービス第三者評価の受審

「利用者のサービス選択」及び「事業の透明性の確保」のための情報提供と継続的な利用者サービスの質の向上に向けた取り組みを目的として令和3年10月から令和4年1月にかけて、福祉サービス第三者評価を受審した。

### (7) 認知症に対するスピリチュアルケアの実施

認知症を有する利用者が多く入所し、これに対する非薬物療法が不十分な中で多様な認知症状による訴えや要求の有無に関わらず、スピリチュアルケア（心のケア）の実施に取り組み、その第一歩として利用者を信じ、価値観を受け入れて、善悪を評価せず受容的に寄り添い傾聴することを継続して行った。本格的な実施に向けてリハビリ専門職の有資格者を専属の職員とし、認知症の行動・心理症状の改善が期待される日本版BPSDケアプログラムを活用し、認知症ケア専門士

などの有資格者と協力した取り組みが実施できるよう専門研修に参加できた。また、新型コロナウイルス感染症予防のため家族等の対面面会を制限しているため、利用者の訴えを職員が傾聴することで心身の安定を図ることができた。

## 6 人材育成

### (1) 目標管理制度の充実

職員個々が個人目標の設定を行い、面談による目標の達成度を評価することで業務の課題を明確化し、職員の主体性の向上やモチベーションアップ、問題解決能力の向上を図った。しかし、職員が希望する研修受講については、新型コロナウイルス感染症拡大により中止やオンライン研修となった。

### (2) 法人内研修会への参加状況

ア 管理職研修に3名、新任職員研修に4名、身体拘束・接遇・高齢者虐待研修に7名、労務管理研修に11名、安全衛生研修に16名、4年目・5年目研修に7名、資格取得動機付け研修に2名、実践研究研修に1名、財務研修に1名、係長研修に5名が参加した。

イ 新型コロナウイルス感染症予防のため、集合研修は最小限での実施となり課題研修やオンライン研修へ変更して実施となった。

### (3) 外部研修会への参加状況

ア 東京都社会福祉事業従業者人権研修【I】	1名（オンライン研修）
イ リスクマネージャー養成研修	1名（オンライン研修）
ウ 高齢者褥瘡ケア研修	1名（オンライン研修）
エ 日本版BPSDケアプログラム研修	1名（オンライン研修）
オ 看護師実習指導者研修	1名
カ 介護職員実習指導者研修	2名

### (4) 施設内研修の実施

- ア 新任職員研修
- イ 事故対策研修（危険予知トレーニング）
- ウ 身体拘束廃止研修
- エ 褥瘡予防対策研修
- オ 口腔ケア研修
- カ グリーフケア研修

## 7 施設利用者に対する虐待防止と権利擁護

(1) 利用者が尊厳のある生活が送れるよう利用者本人の自己決定権を尊重し、本人及び家族の意向に沿った支援が行えるようカンファレンスの充実に努めた。

(2) 利用者、家族から寄せられた苦情は施設の苦情等相談員が対応し、苦情等解決責任者である施設長は本部に報告するとともに、適切かつ速やかに解決案を策定し誠意をもって対応できるよう体制を整えている。

- (3) 施設内の安心と安全を保持するため、施設内での不祥事防止及び外部からの不審者の侵入防止・防犯等の観点から設置された防犯カメラを活用し、施設内事故対策委員会でカメラ映像を参考に、ヒヤリ・ハットや事故発生予防対策に利用するよう努めた。
- (4) 利用者の人権への配慮やプライバシーの保護を主旨とした研修を継続的に実施するとともに、日常ケアの振り返りを行い、マニュアルの整備や不適切ケアの報告体制を整え、虐待の発生防止に努めた。

## 【9】有料老人ホーム 熱海ゆとりあの郷

### 1 施設の運営方針

介護付有料老人ホーム熱海ゆとりあの郷は入居者が安心して豊かな老後生活が過ごせる事を目的に設置されたものであり、令和3年度においても安全、安心の確保施策と各種サービスの充実に取り組んだ。

入居率は資金収支面で経営安定化に大きく影響するが、新型コロナウイルス感染症の流行で首都圏からの入居検討者が感染を心配して来訪・見学・体験入居を控えているため、死亡退去者数を上回る新規契約獲得が困難だった。

入居者数減は管理費、食費、介護費の収入減になる。一方で、3年間の激変緩和措置を取りながら令和元年度10月から行っている管理費の改定を令和3年度は計画通り4月より実施し、経営の安定化を図っている。

食費は令和元年12月に変更した食堂委託事業者の食事サービス向上への努力もあり、食事内容の評価が上がっている。ただし食費の収支差額の改善には喫食率をもう一段向上させる努力が必要である。

また、介護費については死亡等の退去者に介護度の高い利用者が多く含まれたため介護収入の減少を招いた。

診療所については看護師採用難の為、保健所と相談の上、令和2年度8月から入院病床を休止中であるが、4月より新規に2か所の外部病院との提携を行い合計3か所の入院体制を整えた。その上で、今後の診療体制変更を視野に入れた入居者アンケートを実施したが、現状維持の意見も多かったことから、現状の新型コロナウイルス感染症の流行状況から診療体制変更を拙速に行わず、入居者の意見を伺いながら慎重に検討して行くこととしている。

その他費用についても見直しを継続し収支改善に努める他、広告宣伝の強化等を進めながら入居率の一層の向上を目指す。

## 2 人員配置

(単位：名)

職 種	配置基準 (国等)	配置基準 (加算分)	配置基準 小計(①)	基準超過分 (②)	配置基準計 (定員数) (①+②) A	令和4年3月31日現在人員配置状況					配置基準計 (定員数) との差 B-A
						正規職員 (③)	非常勤職員	派遣職員 (再掲)	非常勤職員 常勤換算 (④)	実人員数 (③+④) B	
施設長	1.0		1.0		1.0		1.0		1.0	1.0	0.0
医師	1.0		1.0	1.4	2.4		4.0		2.0	2.0	▲ 0.4
看護・生活部長			0.0	1.0	1.0	1.0				1.0	0.0
看護師	6.1		6.1		6.1	5.0	3.0		1.4	6.4	0.3
看護助手	1.5		1.5	1.0	2.5					0.0	▲ 2.5
介護職員	24.0		24.0		24.0	11.0	17.0	3.0	15.4	26.4	2.4
介護支援専門員	1.0		1.0		1.0	1.0				1.0	0.0
生活相談員	2.0		2.0		2.0	2.0				2.0	0.0
機能訓練指導員	1.0		1.0		1.0	1.0				1.0	0.0
クレーク (特定・診療所)	1.0		1.0	1.0	2.0	1.0				1.0	▲ 1.0
総務・営業				6.0	6.0	5.0	2.0		1.8	6.8	0.8
病院送迎・ 夜間受付				3.8	3.8		5.0		3.8	3.8	0.0
総合計	38.6	0.0	38.6	14.2	52.8	27.0	32.0	3.0	25.4	52.4	▲ 0.4

## 3 入居・収支等の状況

### (1) 入居者数 (実際の入居者数)

	定員	令和3年度 事業計画	令和3年度 実績	達成率
稼働居室	245 室	190 室	177 室	93.2%
入居者数	294 名	237 名	215 名	90.7%

(注) 令和3年度中契約済みで令和4年度に入居予定の5件7名は未計上

## (2) 入居室・入居者数（率）の推移表

	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
入居一時金収入	632,010 千円	351,265 千円	304,749 千円	519,076 千円	350,451 千円
新規契約居室数	25 室	14 室	12 室	19 室	13 室
新規契約者数	32 名	16 名	15 名	24 名	16 名
入居可能人数 A	294 名	294 名	294 名	294 名	294 名
実際の入居者数 B	249 名	256 名	240 名	228 名	215 名
入居率 B/A	84.7%	87.1%	81.6%	77.6%	73.1%
退去室数 (うち死亡)	16 室 (9)	8 室 (8)	29 室 (19)	25 室 (14)	23 室 (15)
退去者人数 (うち死亡)	20 名 (11)	13 名 (13)	33 名 (22)	29 名 (17)	30 名 (19)
返還金額	74,385 千円	21,966 千円	148,680 千円	176,555 千円	104,029 千円

## (3) 収支状況

(単位：千円)

	令和2年度 決算額	令和3年度 当初予算額	令和3年度 補正後予算額	令和3年度 決算額	執行率
収 入	1,087,359	1,082,862	1,021,469	961,045	94.1%
支 出	1,083,283	966,028	1,009,947	949,978	94.1%
収支差額	4,076	116,834	11,522	11,067	-

## ※人件費の状況

(単位：千円)

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
人件費率	64.9%	67.5%	63.4%	56.2%	57.4%
金 額	326,635	352,501	337,152	314,526	305,803
対前年度 増減額	▲ 803	25,866	▲ 15,349	▲ 22,626	▲ 8,723

#### 4 収支の安定確保

##### (1) 課題と改善策

熱海ゆとりあの郷では十数年来、管理費・食費・介護費がいずれも支出額に対して利用者の負担が下回り、赤字を計上した。このため、平成 30 年度以降、各項目の収支改善を行う施策を実施した。このうち管理費については、令和元年度から 3 年間で改定を行うこととし、令和 3 年度も計画通り管理費の改定を行った。

一方で、新規入居者が充分確保できず、入居者の死亡退去数が多くなったことから、空室が増加し、入居率が下がっている。新規入居者の獲得を加速させるため、広告媒体の内容をさらに充実させる等、積極的な販売活動を行う。

また、最大の赤字要因である熱海ゆとりあの郷診療所の運営は、熱海ゆとりあの郷の基本理念に基づく面があるので、直ちに入居者の負担を求めることは出来ないが、病床の継続や診療体制の見直しについては入居者アンケートを実施した結果の意向を考慮に入れて検討を進める必要がある。

##### ア 管理費

平成 31 年度から実施している管理費の引き上げ 3 か年計画により、令和 3 年度も 4 月当初から計画どおりの引き上げを行った。令和 4 年度からの 3 年間は引き上げ猶予期間ではあるが赤字削減のため無駄を省く努力を継続するとともに新規入居者確保を努力し収益の増大を目指す。

管理費に関する資金収支

(単位:千円)

	令和 2 年度		令和 3 年度	
収 入 (食事収入を除く)	管理費収入 (231, 382)	276, 648	管理費収入 (234, 055)	268, 560
	その他収入 (45, 266)		その他収入 (34, 505)	
支 出 (食事支出を除く)	325, 411		351, 964	
収支差額	▲48, 763		▲83, 404	



## イ 食費

令和元年度 12 月に食堂委託事業者を変更し、業務委託費を削減し、食事単価の引き上げを行った。食事内容は安定し評判も向上しているため新規入居者獲得で入居者増を図り喫食率向上につなげる。

食事に関する資金収支 (単位：千円)

	令和 2 年度		令和 3 年度	
収入	96,436		90,698	
支出	業務委託 (61,187)	104,283	業務委託 (61,187)	102,045
	食材費 (43,096)		食材費 (40,858)	
収支差額	▲7,847		▲11,347	

## ウ 介護費

年度当初の要支援者 23 名、要介護者 50 名の介護保険利用者は、年度内に要支援者 10 名、要介護者 15 名の退去等が影響し、年度末で要支援者 15 名、要介護者 49 名と減少した。

介護に関する資金収支 (単位：千円)

	令和 2 年度		令和 3 年度	
収入	161,514		150,369	
支出	人件費 (147,499)	163,862	人件費 (150,138)	164,056
	その他 (16,363)		その他 (13,918)	
収支差額	▲2,348		▲13,687	

## エ 診療所

看護師採用難により病床運用に必要な看護師が不足したため、令和 2 年度 8 月から入院病床を保健所と調整の上休止した。医師の 24 時間体制は維持し、看護師の 24 時間体制は熱海ゆとりあの郷全体として維持している。また、従来 1 か所であった入院機能のある近隣の外部病院について、令和 3 年 4 月から新規に 2 か所と提携し緊急の場合は外部の医療機関に入院可能な体制も整えた。診療所の経営改善に向けての運営体制変更については入居者の意向も踏まえて慎重に検討を進める必要がある。

診療所に関する資金収支

(単位：千円)

	令和2年度		令和3年度	
収入	25,070		22,964	
支出	医師人件費 (47,584)	106,602	医師人件費 (50,045)	94,217
	正職員人件費 (41,981)		正職員人件費 (32,313)	
	非常勤職員人件費 (5,363)		非常勤職員人件費 (4,732)	
	その他支出 (11,674)		その他支出 (7,127)	
収支差額	▲81,532		▲71,253	

(2) 広報活動の充実

広報活動内容

	広告媒体等	問合せ 件数	見学 件数	体験 入居数	契約数	
					室	人
令和3 年度 累計	ゆとりすと会員	838	43	3	9	11
	高島屋DM	164	24	0	1	1
	有料老人ホーム協会	7	1	0	0	0
	紹介(入居者、ゆ会員)	86	13	0	1	2
	ホームページ	150	10	0	1	2
	婦人公論	85	2	0	0	0
	郵便局	1	0	0	0	0
	日経新聞	52	40	0	0	0
	その他(既知)	112	6	0	0	0
	合計	1,495	139	3	12	16

(3) 営業活動内容

媒体種別	実施月
ゆとりすと (合計 11,609 部)	毎月実施
高島屋DM (合計 30 万部)	10月 (15万部)、1月 (15万部)
婦人公論 (8万部)	1月
新聞折込み (日本経済新聞) (6,850 部)	8月、小平市全域
新聞折込み (日本経済新聞) (合計 385,000 部)	10月から毎月実施 東京 23 区、小平市、熱海市、小田原市

## 5 利用者の安心・安全確保とサービスの向上

### (1) 新型コロナウイルス感染症防止対策

ア 蔓延防止等重点措置等の情報をタイムリーに館内掲示や館内放送等で周知し、外出自粛、マスク着用、手指消毒を徹底した。

イ 食堂、ロビー、事務所等に飛沫防止パネルを設置するとともに、診療所、デイルーム、食堂、ホール等にウイルス対策に有効な空気清浄機を導入し感染防止に努めた。

ウ 入居者及び外来者の自動体温検温装置、手指消毒装置等を設置し衛生管理を徹底した。

### (2) 食事内容の改善対策

ア 毎月、入居者代表と、食堂運営委託事業者の代表及び職員の担当者による食事委員会を開催して意見交換を行い、食事内容の改善や食堂運営体制向上に努めた。

イ 令和3年度も前年に引き続き自治会運営委員による食事アンケートを実施し、入居者からの具体的ご意見を参考に改善を図った。

### (3) 外部医療体制の確保

ア 令和2年から導入している訪問歯科診療が軌道にのり、治療内容に即して訪問時間、訪問回数を増やす等の対応によって入居者の利便性が向上した。

イ 令和3年度4月から新規に外部病院2か所との提携を行ったことにより、入院対応も充実していることを入居者に案内を行うことで、緊急時の安心感を高めた。

## 6 人材育成

### (1) 法人内研修会への参加状況

新任研修	4名(4月)本部
管理職研修	1名(4月)本部書面
施設理念と基本方針	15名(4月)施設内
実践研究研修①	1名(5月)本部リモート
感染対策スタンダードプリコーション	13名(5月)施設内
身体拘束廃止委員会ユマニチュード	9名(6月)施設内
事故防止居室に潜むリスクの対処	8名(7月)施設内
実践研究研修②	1名(7月)本部リモート
褥瘡委員 おむつ交換と排泄ケア	12名(8月)施設内
介護記録の書き方	16名(9月)施設内
新任研修	4名(10月)本部レポート
感染症予防対策	13名(10月)施設内
実践研究研修③	1名(10月)本部
災害避難時の対応	4名(10月)施設内

グリーンケア①	1名（10月）本部
グリーンケア②	1名（11月）施設内
勤続3年目研修	1名（11月）施設内
体位変換と移譲解除	14名（11月）施設内
勤続10年目、15年目研修	1名（11月）本部課題レポート
実践研究発表	4名（11月）本部
事故報告書の書き方	13名（12月）施設内
高齢者の栄養管理（褥瘡委員会）	12名（1月）施設内
係長研修	3名（1月）本部課題レポート
勤続2年目研修	5名（1月）本部
外国人介護職員の為の日本語研修	2名（1月）外部
オーラルフレイル	10名（2月）施設内※歯科講師
メンタルヘルス研修	1名（3月）本部リモート
身体拘束・高齢者虐待について	10名（3月）施設内

(2) 外部研修会への参加状況

リスクマネジメント	1名（7月）外部
褥瘡委員 スキンケア	2名（8月）外部リモート
（社福における）予算管理制度	1名（9月）外部
看取り期に望まれるケア	3名（12月）外部
栄養管理の重要性	1名（12月）外部
外国人介護職員の為の日本語研修	2名（12月）外部
施設ケアマネと実地指導	1名（2月）外部

7 文化的催しの開催

春の小旅行	中止（4月）
お花見	中止（4月）
森林浴ツアー	中止（5月）
ゆとりあ名画劇場	述べ73名参加（5月、7月、9月、11月、1月、3月）
サマーパーティー	82名参加（8月）
敬老祭	77名参加（9月）
お茶会	中止（9月）
作品展示会	10月25日～30日（ゆとりあホール）
ふれあい大会（秋の運動会）	中止（11月）
紅葉狩り	中止（11月）
クリスマスパーティー	86名参加（12月）
餅つき大会	80名参加（12月）
新年祝賀会	96名参加（1月）

初詣	18名参加（1月）
ゆとりあコンサート	中止（1月）
梅園梅まつり散策	中止（2月）
川津桜花見	中止（2月）
観劇ツアー	中止（3月）

## 8 施設利用者に対する虐待防止と権利擁護

黎明会の規定する虐待防止のための指針等に基づいて勉強会を行っている。また、虐待防止委員会と身体拘束廃止委員会で職員へのアンケート方式の「虐待の芽チェックリスト（東京都福祉保健財団 高齢者権利擁護支援センター作成）」を分析して虐待の予防を行っている他、より公平な介護サービス提供を行うための施設内会議を毎月実施し権利擁護につとめている。

## 【10】在宅サービス総合センター

### 1 施設の運営方針

令和3年度は新型コロナウイルス感染症防止のため、オンライン等の利用や少人数での開催など工夫によって地域活動や介護予防講座を行うことができた。

在宅高齢者の介護サービス利用状況はコロナ前と同水準となりケアプラン件数は回復、訪問看護・訪問介護の需要は高く、件数は前年度を上回り、増収となった。

訪問介護においては新型コロナウイルスに感染し自宅療養中の高齢者に対して、感染防止対策を徹底しながら安心して自宅で過ごせるよう介護サービスを提供した。

### 2 人員配置

(単位：名)

職 種	配置基準 (国等)	配置基準 (加算分)	配置基準 小計(①)	基準超過分 (②)	配置基準計 (定員数) (①+②) A	令和4年3月31日現在人員配置状況					配置基準計 (定員数) との差 B-A
						正規職員 (③)	非常勤職員	派遣職員 (再掲)	非常勤職員 常勤換算 (④)	実人員数 (③+④) B	
施設長			0.0	1.0	1.0	1.0				1.0	0.0
理学療法士		2.0	2.0		2.0	2.0				2.0	0.0
看護師	9.0		9.0		9.0	6.0	2.0		1.2	7.2	▲ 1.8
事務員			0.0	3.0	3.0	1.0	4.0		2.6	3.6	0.6
相談支援 専門員	3.0		3.0		3.0	2.0				2.0	▲ 1.0
介護支援 専門員	14.0	1.0	15.0		15.0	13.0				13.0	▲ 2.0
介護職員	3.0	3.0	6.0	2.0	8.0	3.0	18.0		6.4	9.4	1.4
合 計	29.0	6.0	35.0	6.0	41.0	28.0	24.0	0.0	10.2	38.2	▲ 2.8

※ 介護職員は1人あたり1日の訪問件数を6.2件とすると、1日40件を達成するには非常勤職員6.4人必要となる。そのほかコーディネーターとしてサービス提供責任者(正規職員)が利用者40人当たり1人必要となる。

### 3 利用・収支等の状況

#### (1) 全体の収支状況 (単位：千円)

	令和2年度 決算額	令和3年度 当初予算額	令和3年度 補正後予算額	令和3年度 決算額	執行率
収 入	276,736	276,460	285,596	286,564	100.3%
支 出	270,379	272,861	275,939	273,147	99.0%
収支差額	6,357	3,599	9,657	13,417	-

#### ※人件費の状況 (単位：千円)

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
人件費率	90.1%	93.5%	95.6%	89.9%	86.3%
金 額	222,997	234,319	231,182	236,263	234,931
対前年度 増減額	21,715	11,322	▲ 3,137	5,081	▲ 1,332

### 4 人材育成

令和3年度は次の各研修をオンライン等で受講したほか、各研修受講後は、その内容に応じ、研修受講者を講師として職場内で伝達講習を実施した。

#### (1) 法人内研修会

専門研修 : 計11回、延べ85名参加

職階別研修 : 計12回、延べ24名参加

#### (2) 外部研修会等

ア 小平市地域包括支援センター：虐待研修2名、生活支援コーディネーター研修2名  
認知症地域支援推進員研修1名、意思決定支援研修8名、認知症ケア研修2名

イ 指定居宅介護支援事業所：小平市ケアマネ連絡会研修6名参加

主任介護支援専門員研修4名、小平市ケアプラン研修2名

東京都高齢者虐待防止研修1名

ウ 訪問看護ステーション：在宅でのターミナルケア、在宅での災害看護、在宅精神医療の現状と課題（すべてオンライン）ほか計9回、延べ10名参加

エ 地域生活支援センター澄水：強度行動障害支援者養成研修（基礎研修）、意思決定支援研修、小平市相談支援専門員ワーキング等に参加した。

オ 訪問介護ステーション：小平市医療介護連携推進協議会主催の研修に計2回、延べ26名参加、サービス提供責任者養成研修1名参加

カ 地域ネットワーク強化のため、小平市在宅医療介護連携推進協議会の勉強会に各事業所から参加した。

## 5 利用者に対する虐待防止と権利擁護

各事業所で、「虐待の芽チェックリスト」（東京都福祉保健財団高齢者権利擁護支援センター作成）を用いて年1回自己点検をし、職員の意識レベルを測定した。結果を集計・分析することで、どのような傾向にあるか職場内で検討し意識向上に努めた。



## 【10-1】小平市地域包括支援センター けやきの郷

### 1 施設の運営方針

令和3年度は新型コロナウイルス感染症防止のため、オンライン等の利用や少人数での開催など工夫によって地域活動や介護予防事業を行った。

また、生活支援コーディネーターを中心に高齢者自主活動（体操教室）や支えあいの場（カフェ）新規立ち上げの支援（5か所）を行った。さらに、令和3年度から配置している認知症地域支援推進員を中心に、認知症高齢者でも住み慣れた地域で安心して暮らすことができるように認知症を支えるネットワークづくりを行った。

### 2 人員配置（令和4年3月31日時点）

介護支援専門員7名（内訳：正規職員7名）

### 3 利用・収支等の状況

#### （1）利用件数

	事業計画	実績	達成率
予防ケアプラン 作成件数	3,840件 (月320件)	3,859件 (月321件)	100.4%

#### （2）収支状況

（単位：千円）

	令和2年度 決算額	令和3年度 当初予算額	令和3年度 補正後予算額	令和3年度 決算額	執行率
収入	67,894	70,744	71,928	72,511	100.8%
支出	67,848	69,348	66,718	66,483	99.6%
収支差額	46	1,396	5,210	6,028	-

### 4 収支の安定確保

小平市委託料の有効活用に努め、利用者サービスの向上・地域包括ケアの取組みを行った。介護予防ケアプラン件数（年間3,859件）は目標を達成した。

### 5 利用者の安心・安全確保とサービスの向上

#### （1）総合相談支援・介護予防ケアマネジメントの適切な業務実施

3,881件の総合相談と介護予防ケアマネジメントに対応した。

(2) 介護予防講座等の積極的な実施・参加

新型コロナウイルス感染症の影響により例年の3割程度の参加であった。

ア 二次予防講座（体操教室）：月2回（計7回、延べ103名参加）、家族介護教室（年2回、18名参加）を実施。

イ 認知症カフェ「オレンジかふえ」：月1回（計4回、延べ31名）開催した。

ウ 認知症相談会（年1回、延べ1名）を実施

エ 第2層協議会（年2回、延べ13名）を実施。

オ 「かふえなかじま」（地域支援、年2回、延べ12名）への参加。

カ 上宿・小川公民館事業企画委員会（年6回、延べ69名）への参加。

キ テーマ設定型地域ケア会議（年1回、延べ6名）を実施。

(3) 介護予防見守りボランティアの活動支援

交流会・連絡会（計2回、延べ71名参加）を開催した。

(4) 在宅サービス総合センター内の連携強化

訪問看護ステーションをはじめ訪問介護ステーション、指定居宅介護支援事業所との相談や連携を密にし、緊急対応が必要な相談者や問題を抱える相談者に適切なサービスを提供した。また、MCS（メディカルケアステーション）を活用し情報共有を行い業務の効率化を図った。

## 【10-2】指定居宅介護支援事業所

### 1 施設の運営方針

特定事業所加算Ⅱを取得している事業所として、困難ケース、医療依存度の高い利用者の担当ができるように、専門的知識やマネジメントの向上を目的として研修（オンライン）を受講し介護支援専門員の資質強化を行った。

令和3年度よりタブレット端末の導入を試みた結果、作業効率の向上、連絡調整時間の短縮、情報共有が円滑になり、利用者への迅速な対応に繋がった。

ケアプラン件数は目標値は達成できなかったが、昨年同様の件数を維持できた。

### 2 人員配置（令和4年3月31日時点）

介護支援専門員6名（内訳：正規職員6名）

事務職員1名（内訳：非常勤職員1名（常勤換算0.4））

### 3 利用・収支等の状況

#### （1）利用件数

	事業計画	実績	達成率
利用数	2,640件 (月220件)	2,491件 (月207件)	94.3%

#### （2）収支状況

（単位：千円）

	令和2年度 決算額	令和3年度 当初予算額	令和3年度 補正後予算額	令和3年度 決算額	執行率
収入	43,853	46,136	43,966	43,944	99.9%
支出	43,579	46,096	49,195	48,708	99.0%
収支差額	274	40	▲ 5,229	▲ 4,764	-

### 4 収支の安定確保

#### （1）特定事業所加算Ⅱの取得継続

指定居宅介護支援事業所の特定事業所加算Ⅱの加算要件を充たすため、24時間連絡体制の確保、専従主任介護支援専門員の配置、サービス提供のための留意事項に係る伝達等を目的とした会議を毎週1回開催する等の運営の整備を行い、年間11,202千円の収入を確保できた。

加算要件である介護支援専門員実務研修の実習生の受け入れは、令和3年度は2名であり、新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、オンライン（Zoom等）を使用しながら

ら工夫して行った。

## (2) 特定事業所集中減算の管理

居宅サービス計画に位置付けられた訪問介護サービス等の提供総数のうち同一事業内で提供されたサービスが 80%以上にならないよう、毎月の訪問介護サービスの提供状況の管理を徹底した結果、減算となることなく適正管理として受理された。

## 5 利用者の安心・安全確保とサービスの向上

### (1) 指定居宅介護支援事業所内のチーム連携強化

多様化する在宅ケアへの取り組みとして、利用者が円滑にサービスを利用できるよう指定居宅介護支援事業所と小平市地域包括支援センターけやきの郷との情報交換・収集を強化し、迅速なケアマネジメントを実施した。

特に医療ニーズ（ターミナル期を含む）の高い利用者が 10 名と多くみられ、訪問看護ステーションや訪問介護ステーションと連携・協働し、質の高い的確なケアプランを作成することができた。

### (2) 利用者・家族アンケートの実施

令和3年11月、利用者・家族を対象にアンケート（配布 192 件・回収 114 件・回収率 59%）を実施した。今年度のアンケートでは入院時に担当のケアマネジャーの名前を伝えることを知っているかの問いに対して「知っている」との回答は 57%であった。

退院後の早期回復を目的とした病院との連携は不可欠であるため、引き続き利用者へは入院時に担当ケアマネジャーの名前を伝えるように依頼していく。

### 【10-3】みなみだい訪問看護ステーション

#### 1 施設の運営方針

新型コロナウイルス感染症拡大が続くなか、在宅療養を希望する利用者が増えたことで、訪問看護利用者数は200人を超えた。重中度の利用者ばかりでなく、QOLやADLの維持にむけ予防に焦点を当てた依頼が特徴的であった。

訪問件数は令和2年度を上回り、また医療の加算（機能強化型訪問看護管理療養費1）や介護の加算（看護体制強化加算2）の取得により収益も増収となった。南台病院をはじめ地域の訪問診療医との連携により18件のターミナル看護（在宅看取り）を提供した。

#### 2 人員配置（令和4年3月31日時点）

看護師8名（内訳：正規職員6名・非常勤職員2名（常勤換算1.2））

理学療法士2名（内訳：正規職員2名）

事務員2名（内訳：嘱託職員1名・非常勤事務1名（常勤換算0.4））

#### 3 利用・収支等の状況

##### （1）利用件数

	事業計画	実績	達成率
訪問件数	10,320件 (月860件以上)	10,827件 (月902件)	104.9%

##### （2）収支状況

(単位：千円)

	令和2年度 決算額	令和3年度 当初予算額	令和3年度 補正後予算額	令和3年度 決算額	執行率
収入	93,454	90,402	97,990	97,488	99.5%
支出	90,629	89,205	87,472	86,815	99.2%
収支差額	2,825	1,197	10,518	10,673	-

#### 4 収支の安定確保

##### （1）訪問看護利用者の安定確保

地域の医療機関及び指定居宅介護支援事業所、救護施設通所事業（黎明寮・あかつき）、地域の精神障がい者退院事業との連携を図り目標値を達成した。

ア 月間の訪問件数902件（目標860件）

イ 1日平均訪問件数45件（目標43件）

ウ 月間新規利用者9名（目標7名）

(2) 機能強化型訪問看護ステーションの要件取得

機能強化型訪問看護管理療養費1（診療報酬）を令和3年4月より取得し、看護体制強化加算2（介護報酬）を令和4年3月より取得した。

5 利用者の安心・安全確保とサービスの向上

(1) 利用者要望に対応するための効率的な業務実施体制の整備

ア 新型コロナウイルス感染症防止対策を行い安全なサービスの提供が行えた。

イ 本体事業所とサテライト事業所との協力体制を強化することでターミナル期や緊急訪問が効率的に対応できた。

ウ 当センターの介護支援専門員や訪問介護ステーションとの連携強化を継続したことにより、看取りや医療依存度の高い利用者のニーズへの対応が継続できた。

(2) 情報共有システムの活用

本体とサテライト間でMCS（メディカルケアステーション）や電子カルテの共有、ミーティングをテレビ電話で行うことで、より情報共有がスムーズとなり利用者サービスの充実が図られた。

(3) 利用者アンケート調査の実施

利用者に対し、令和4年1月に実施（164件配布・137件回収・回収率83%）したところ、看護技術においてレベルが高く満足している、看護師の訪問で安心して在宅生活ができるなど意見をいただいた。結果をホームページ上に公開し周知した。

## 【10-4】地域生活支援センター澄水

### 1 施設の運営方針

障がい者を含めた地域共生社会の構築に向けて、自立支援協議会、相談支援ワーキング、精神保健福祉業務連絡会に参加し、小平市が体制整備を実施した、地域生活支援拠点事業等の取り組みを開始した。

地域の事業所との連携を図り、利用者の生活の向上、快適な生活に向けて支援が行き届くようにサービス等利用計画の作成を継続し、令和3年7月から機能強化型サービス利用支援費(Ⅲ)を取得したことで、より質の高い相談支援を提供することを心がけた。

### 2 人員配置 (令和4年3月31日時点)

相談支援専門員2名 (内訳：正規職員2名)

### 3 利用・収支等の状況

#### (1) 利用人員

		事業計画	実績	達成率
一般相談	地域移行件数	1件	0件	0.0%
	地域定着支援件数	24件	24件	100.0%
特定相談	サービス等利用計画	80件	107件	133.7%
	モニタリング報告書	180件	133件	73.8%
指定障害児相談事業	サービス等利用計画	10件	14件	140.0%
	モニタリング報告書	10件	9件	90.0%

#### (2) 収支状況

(単位：千円)

	令和2年度 決算額	令和3年度 当初予算額	令和3年度 補正後予算額	令和3年度 決算額	執行率
収入	18,001	17,441	16,949	17,745	104.7%
支出	17,533	17,061	17,702	17,740	100.2%
収支差額	468	380	▲ 753	5	-

#### 4 収支の安定確保

- (1) 特定相談・障害児相談において、利用者の状況を踏まえた計画相談・モニタリングを継続することで、安定した収入確保に努めた。また、2名の地域定着支援を継続できた。
- (2) 計画相談支援・障害児相談支援における体制加算の取得継続  
行動障害支援体制加算・要医療児支援体制加算・精神障害者支援体制加算の取得が継続できた。
- (3) 機能強化型サービス利用支援費（Ⅲ）の新規取得  
機能強化型サービス利用支援費（Ⅲ）取得に向けて取り組み、加算取得要件を満たしたため、令和3年7月より新規に取得した。（390千円増）

#### 5 利用者の安心・安全確保とサービスの向上

- (1) 小平市地域生活支援等事業所としての役割  
小平市内で生活している障がい児者とその家族が安心して生活するための体制整備において、相談、緊急時の受け入れ・対応、体験の機会・場の提供、地域の体制づくりの協力を行う事業所として登録した。
- (2) 指定一般相談支援事業所としての役割  
障がいのある方が、快適で充実した生活を送るために、障害者総合支援法や、他制度を利用し、本人のニーズや意向を踏まえた計画相談を実施。地域定着支援事業では、地域で一人暮らしをしている方を対象として、24時間相談を受け、緊急時には訪問できる体制で、在宅生活を支援した。



## 【10-5】訪問介護ステーションみなみだい

### 1 施設の運営方針

利用者の受け入れ体制の拡充を図るために、業務調整、作業の効率化を目指しカルテのICT化を行い、職員の稼働時間の管理や訪問時間の管理を一元化することにより、訪問件数が増え、増収につながった。

法人内の小平市地域包括支援センターけやきの郷、指定居宅介護支援事業所、みなみだい訪問看護ステーションと連携し、利用者の情報共有をしながら、ニーズに合ったサービスを迅速に提供することができた。

新型コロナウイルス感染症対策においてマニュアルの作成、訪問介護員の感染予防対策・実技研修を開催したことで、新型コロナウイルス感染症陽性者に対するサービスを提供することができた。

### 2 人員配置（令和4年3月31日時点）

介護職員 21名（内訳：正規職員 3名・非常勤職員 18名（常勤換算 6.4））

事務員 1名（内訳：非常勤職員 1名（常勤換算 0.8））

### 3 利用・収支等の状況

#### (1) 利用件数

	事業計画	実績	達成率
訪問件数	12,600件 (月 1,050件)	15,471件 (月 1,289件)	122.7%

#### (2) 収支状況

(単位：千円)

	令和2年度 決算額	令和3年度 当初予算額	令和3年度 補正後予算額	令和3年度 決算額	執行率
収入	53,534	51,737	54,763	54,875	100.2%
支出	50,789	51,151	54,852	53,400	97.4%
収支差額	2,745	586	▲ 89	1,475	-

### 4 収支の安定確保

#### (1) 訪問件数の確保とスケジュール管理

令和3年度はICTにて訪問介護員の稼働状況を一元管理することで、無駄のない訪問スケジュール管理ができ訪問件数の増加、目標達成となった。また、急な訪問時間の変更にも対応でき、キャンセルが減少した。

(2) 人材の確保

黎明会ケアスクール等の介護職員初任者研修修了者から2名雇用した。

(3) 特定事業所加算Ⅱ（所定単位数10%加算）の取得準備

加算要件にある個別研修計画の作成と実施、サービス提供責任者と訪問介護員との利用者に対する連絡体制の構築、定期的な会議開催と実技指導を行い、令和4年度からの取得に向けて準備を行った。

5 利用者の安心・安全確保とサービスの向上

(1) 在宅利用者の身体ケアの充実

利用者の身体介護サービスを適切に行えるように、オンラインによる月1回の事業所内研修を行った。新型コロナウイルス感染症対策においてはPPE（個人用防護具）の着脱研修を全員が受けることで安心してサービスが提供できる体制を整えた。

(2) 在宅サービス関連部門での情報共有を図るシステムの活用

法人内のサービス事業所との連携強化のためにMCS（メディカルケアステーション）による情報共有を行い、業務においては作業効率が上がり、連絡調整においても詳細で迅速な対応ができた。

また、ICTの活用により、利用者の状態や注意事項等、情報共有ができることで業務改善となった。

(3) 新型コロナウイルス感染症関連業務

新型コロナワクチン接種促進支援事業に協力し、要介護高齢者のワクチン接種同行を行った。また、実際に陽性者となった利用者の訪問介護を行う在宅要介護者の受入体制整備事業にて1名の利用者に対し年間計27回の訪問介護を提供した。

(4) 利用者アンケート調査を実施

利用者に対し、令和4年1月に実施（87件配布・37件回収・回収率42%）した。話をよく聞く姿勢、身だしなみや言葉遣いに関して良い評価を得た。一方で訪問介護サービス内容について分かりにくいとの意見があったため、介護保険内のサービス内容や種類、自費のサービスとの区別をわかりやすく伝える方法を今後検討していきたい。

## 【10-6】住宅・福祉用具相談取次事業

### 1 利用・収支等の状況

在宅サービス利用者やその相談者の生活環境、特に住宅改修の相談取次窓口として、小平市地域包括支援センターけやきの郷や指定居宅介護支援事業所に情報提供し、小平市居宅介護支援事業者等に対する助成金（住宅改修理由書作成業務1件2,000円）を活用した。

（令和3年度実績：16件、2,000円×16件＝32,000円）